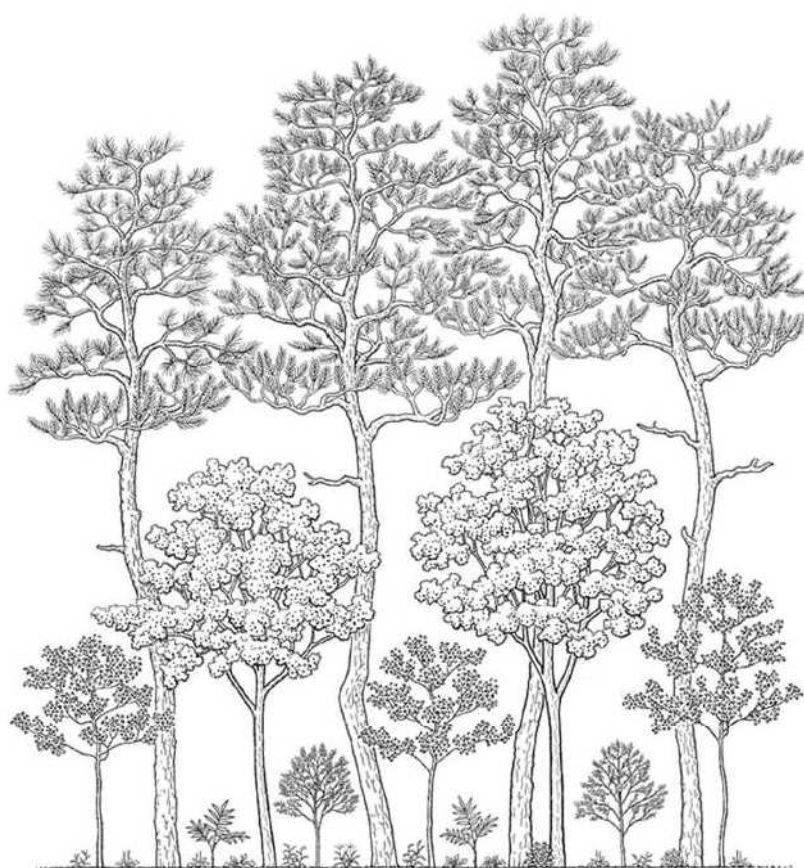


植物群落



カテゴリーI

アカマツ群落〔自然植生〕

植物群落概論

● 植物分科会群落グループ／須田隆一・猪上信義・金子洋平・笹富広一郎・松本健太郎・真鍋 徹

■ 概要

希少植物群落の選定に関しては、県内に存在が確認されている全群落を対象として、現地調査、文献、環境省自然環境保全基礎調査2.5万分の1植生図（2010年に福岡県内全図幅の改訂が終了）などをもとに、植物分科会群落グループにおいて、後述する選定基準に従って検討し、選定した。

群落の区分および名称については、福岡県レッドデータブック2011（以下「RDB2011」という。）を踏襲して、原則として優占種1種で区分し、群落名とした。優占種1種による群落記載は、相観（植生の外観）による区分が可能であること、既存文献などのデータから読み替えが容易であること、植物群落レッドデータブック（我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会，1996）でも用いられていることなどの点で有用である。

この方法により区分された群落は、種組成に基づいて植物社会学的に命名された群集単位に該当する場合は、その群集名を本文中の群落の概要欄に記した。群集名は、原則として福岡県植物誌（福岡県高等学校生物研究部会，1975）、日本植生誌九州（宮脇，1981）、日本植物群落図説（宮脇・奥田，1990）の記載に準じた。なお、環境省特定植物群落に選定されている個体群については、本来は群落の構成要素として位置付けられるものであるが、特定植物群落の選定基準に個体群があること、選定された個体群も特定植物群落として周知されている現状があることを踏まえ、福岡県レッドデータブック2001（以下「RDB2001」という。）およびRDB2011に引き続き、調査対象として検討し、記載した。

また、本文中の植物の和名については、福岡県レッドデータブック2024（以下「RDB2024」という。）維管束植物に合わせて、GreenList 2016およびFernGreenList ver. 2.0の掲載種名を用いた。

今回の改訂において、群落区分および記載方法などがRDB2011と異なる点は、以下のとおりである。

- (1)RDB2011ではスタジイ群落とツブラジイ群落を別の群落として区分していたが、RDB2024ではスタジイ・ツブラジイ群落として統合した。両種が混生するシイ自然林が見られること、植物社会学的植生単位としては、ツブラジイ優占群落であってもスタジイの名称を使用していること（例えば、ヤブコウジースタジイ群集にはツブラジイ優占群落も含まれる）ことによる。
- (2)RDB2011のシロイヌノヒゲ群落には異なる群落が含まれていると判断されたため、RDB2024では小型草本群落のシロイヌノヒゲ群落と中型草本群落のサツママアザミ群落に分割した。
- (3)群落名称のみではその植生が判然としない7群落については、RDB2011において群落名称の後に限定する植生内容・立地名称などを記していたが、新たにヤブニッケイ群落〔石灰岩地

植生], アラカシ群落 [石灰岩地植生], ススキ群落 [半自然植生] の3群落についても同様の取り扱いとした。

(4) 個体群については植生単位としての群落と混同しないようにするため, 名称の後に個体群の語を記した。具体的には, クロモジ群落〈個体群〉, オオミズゴケ群落〈個体群〉, ツクシシクナゲ群落〈個体群〉, ヒモヅル群落〈個体群〉, タマミズキ群落〈個体群〉, ゲンカイツツジ群落〈個体群〉, ヤブツバキ群落〈個体群〉, サザンカ群落〈個体群〉の8群落である。

掲載群落は, RDB2011と同様に植生体系に基づいて階級的に整理した。すなわち, 表 群落-2に示すように, 大区分を植生クラスおよび自然植生・代償植生, 中区分を相観(植生の外観), 小区分を植物群落(単一群落)として体系化し, 俯瞰的理解が容易になるようにした。また, 植物社会学的群落名がある場合は, 環境省2.5万分の1植生図の記載形式に従い, 原則として標徴種-優占種による群落名(例えば, ミミズバイ-スダジイ群集)を用いて本文中に記した。

今回の改訂で選定された群落は, カテゴリーI(緊急に対策必要):14群落, カテゴリーII(対策必要):29群落, カテゴリーIII(破壊の危惧):39群落, カテゴリーIV(要注意):15群落, 合計97群落であった(カテゴリー基準については後述する)。

RDB2011からのカテゴリー変化状況を新旧対照表として表 群落-1に示す。その評価結果を要約すると, 以下のとおりである。

(1) 上位のカテゴリーに移行した群落(対策の緊急性が増大した群落, カテゴリー外からの新規記載を除く)は, 8群落であった。主な危機要因(最も影響が大きい要因として判断されたもの)として, 湿生植物群落のシロイヌノヒゲ群落, ミヤマシラスゲ群落では遷移進行, 河川域植生のヒロハマツナ群落, エノキ群落では河川開発が挙げられた。また, マテバシイ群落ではカシノナガキクイムシによる被害が各地で発生していることから, 病害虫が挙げられた。

(2) 下位のカテゴリーに移行した群落(対策の緊急性が低下した群落)は, 12群落であった。その多くは, 群落状態が前回に比べて安定化し, 生育状況がより良好になったと判断された群落である。また, ツクシシクナゲ群落〈個体群〉については, シカの忌避植物であり, さらに英彦山地などでは上層木の枯損により生育良好となったことによる。

(3) 掲載群落のうち, 草本群落(ハマゴウ群落を含む)の数とその割合は, 全体:97群落中の51群落(53%), カテゴリーI:14群落中の11群落(79%), カテゴリーII:29群落中の23群落(79%), カテゴリーIII:39群落中の11群落(28%), カテゴリーIV:15群落中の6群落(40%)であった。したがって, 保全対策の緊急性が高いカテゴリーIおよびIIには, 草本群落の占める割合が大きかった。

■ 選定基準

植物群落の選定基準は, RDB2001およびRDB2011と同様に, 植物群落レッドデータブック(我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会, 1996)に準拠した。この基準は, 主として, 保全対策の観点から評価するもので, その基準は以下のとおりである。

- ・ カテゴリーI: 緊急に対策必要; 緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する。
- ・ カテゴリーII: 対策必要; 対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する。

- ・ カテゴリーⅢ：破壊の危惧；現在は保護対策が功を奏しているが、将来は破壊の危惧が大きい。
- ・ カテゴリーⅣ：要注意；当面、新たな保護対策は必要ないが、監視は必要。

評価は、現地調査、文献、個人の情報などを総合し、危機要因の要素数およびその影響の強弱に基づいて、可能な限り定量的に行った。

■ 保全対策

今回選定された群落の危機要因について表 群落-3 に示す。危機要因の合計数を多い順に挙げると、海岸開発（28群落）、遷移進行（27群落）、シカ増加（24群落）、河川開発（19群落）、自然災害（18群落）であった。

海岸開発や河川開発などの開発行為を危機要因とする群落の多くは草本群落であった。その中には、ハママツナ群落、ウラギク群落などのように自然公園区域に隣接する群落も確認された。2014年には津屋崎干潟（福津市）が玄海国定公園区域に編入されたが、このような自然公園の拡張なども保全施策として有効と考えられる。

遷移進行を危機要因とする群落のうち、ススキ群落〔半自然植生〕やコナラ群落などの二次植生（二次草原、二次林）については、今後、群落維持のための人的管理の仕組みなどを整えていく必要がある。コイヌノハナヒゲ群落やシロイヌノヒゲ群落などの湿生植物群落についても、遷移進行を抑制する生態学的管理方法などについて検討が望まれる。

シカ増加は、RDB2011で初めて取り上げられた危機要因で当時は9群落が挙げられたが、今回は24群落と大幅に増加した。RDB2011ではブナ群落、ミズナラ群落などブナクラス域またはこれに隣接する植生の危機要因であったが、今回はそれらに加え、ヤブツバキクラス域のスタジイ・ツブラジイ群落やウラジロガシ群落などでも主な危機要因として取り上げられた。特にブナクラス域の植生におけるシカ被害が深刻であることから、県内ブナ林域におけるニホンジカの生態学的管理対策も早急に望まれる。

自然災害は1991年の台風被害に起因するものが主なものであった。30年が経過した現在においても植生は回復途上にあると考えられるので、今後も継続的なモニタリングが望まれる。

以上、危機要因の視点から保全対策について述べた。福岡県では2022年に「福岡県生物多様性戦略2022-2026」が策定され、「重要地域を核とした生態系の保全・再生を図るとともに、それらをつなぐ生態系ネットワークの形成を進めます」が目標の一つとして掲げられている。今回選定された植物群落は、生物多様性保全上の重要地域に位置づけられるものが多いと考えられ、今後、積極的な保全の推進が必要である。また、2023年に策定された「生物多様性国家戦略2023-2030」では、保護地域の拡充が行動目標の内容として挙げられている。自然公園等の保護制度の対象となっていない掲載群落については、その候補地として検討するなどの施策の展開が期待される。

■ 調査協力者名

薛 孝夫，中村康則

■ 参考文献（引用文献）

Ebihara, A. *et al.*, 2023. FernGreenList ver. 2.0: An updated checklist of wild fern and lycophyte species in Japan.

福岡県, 1979. 第2回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書. 福岡県.

福岡県高等学校生物研究部会, 1975. 福岡県植物誌. 博洋社.

福岡県生物多様性情報総合プラットフォーム 福岡生きものステーション, 2023. 生きもの情報マップ.

<https://biodiversity.pref.fukuoka.lg.jp/map.html>

本田 守, 2021. 皿倉山の植生と植物. 海鳥社.

Ito, M. *et al.*, 2016. Green List ver. 1.01. <http://www.rdplants.org/gl/>

環境庁, 1988. 第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 追加・追跡調査 (福岡県).

環境省自然環境局生物多様性センター, 2023. 自然環境調査Web-GIS. <http://gis.biodic.go.jp/webgis/index.html>

html

熊谷信孝, 2002. 貫・福智山地の自然と植物. 海鳥社.

熊谷信孝, 2010. 英彦山・犬ヶ岳山地の自然と植物. 海鳥社.

熊谷信孝, 2016. 自然誌 香春岳. 海鳥社.

宮脇 昭, 1981. 日本植生誌九州. 至文堂.

宮脇 昭・奥田重俊, 1990. 日本植物群落図説. 至文堂.

宮脇 昭・奥田重俊・藤原陸夫, 1994. 改訂新版日本植生便覧. 至文堂.

宮崎県版レッドデータブック改訂・外来種リスト検討委員会, 2022. 三訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物.

中西弘樹, 1980. ハマオモト群落の生態. 日本生態学会誌 30: 251-257.

Nakao, K. *et al.*, 2013. Spatial conservation planning under climate change: Using species distribution modeling to assess priority for adaptive management of *Fagus crenata* in Japan. *J. Nat. Conserv.* 21: 406-413.

大野啓一, 1979. 西日本における沖積低地の河畔林に関する群落学的考察. 横浜植生学会報告16: 227-236.

須股博信, 1973. カルスト台地平尾台の自然森林植物社会. 北九州市文化財調査報告書第13集 カルスト台地平尾台の植生とフロラ. 北九州市教育委員会.

寺田仁志・川西基博・久保紘史郎, 2014. 種子島本村海岸の砂丘地植生について. 鹿児島県立博物館研究報告 (33): 1-26.

我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会, 1996. 植物群落レッドデータ・ブック. (財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会. アボック社出版局.

※各群落の解説 掲載内容についての補足

・分布情報

今回の改訂に伴う調査で群落の所在を確認した市区町村を掲載した。今回の改訂のための調査では直接確認していないが、大まかに2000年以降において確認され、現存する、またはその可能性が高い市区町村については、その名称の前に*を付けて掲載した。

・指定状況・特記事項

群落所在地の全てまたは一部が自然公園 (図 群落-1) に指定されている場合は、その名称とともに特別地域/普通地域の区分を記した。また、群落の全てまたは一部が環境省特定植物群落に選定されている場合は、表 群落-4 に示す番号を記した。

表 群落-1 植物群落 新旧カテゴリー対照表

	福岡県RDB2011のカテゴリー				再選定 群落数※	追加 群落数※	掲載 群落数※	
	I	II	III	IV				
今回のカテゴリー	I	チャボツメレンゲ群落 アカマツ群落〔自然植生〕 ハンノキ群落 ツクシクロイヌノヒゲ群落 コイヌノハナヒゲ群落 ヌマガヤ群落 ヒツジグサ群落 ガガブタ群落 シバナ群落 ゲンカイイワレンゲ群落	シロイヌノヒゲ群落* ヒロハマツナ群落	クロモジ群落〔個体群〕		13	1	14
		アカマツ群落〔代償植生〕 フクド群落 ハマサジ群落	ブナ群落 イワヒバ群落 ツメレンゲ群落 イヌマキ群落 ムクノキ群落 ススキ群落〔半自然植生〕 サツママアザミ群落* オオミズゴケ群落〔個体群〕 オグラコウホネ群落 セキシウモ群落 ガシヤモク群落 リュウノヒゲモ群落 ナガミノオニシバ群落 ハママツナ群落 ヒトモトススキ群落 イセウキヤガラ群落 コウボウムギ群落 ケカモノハシ群落 コウボウシバ群落 ハマオモト群落 クロマツ群落	ミヤマシラスゲ群落		25	4	29
	III	ツクシジャクナゲ群落〔個体群〕 オオタチヤナギ群落 ヒモツル群落〔個体群〕 ツクシオオガヤツリ群落 オギ群落 アイアシ群落	ミズナラ群落 ツガ群落 ヒノキ群落〔自然植生〕 シオジ群落 ケヤキ群落〔ブナクラス〕 イヌシデ群落 ミヤコザサ群落 クマイザサ群落 スダジイ・ツブラジイ群落** タブノキ群落 ヤブニッケイ群落〔石灰岩地植生〕 カゴノキ群落 アラカシ群落〔石灰岩地植生〕 ウラジロガシ群落 アカガシ群落 モミ群落 カヤ群落 ケヤキ群落〔ヤブツバキクラス〕 ハマボウ群落 マルバニッケイ群落 タマミズキ群落〔個体群〕 コナラ群落 アマモ群落 シオクグ群落 ダルマギク群落 スギ群落〔巨木林〕	ゲンカイツツジ群落〔個体群〕 エノキ群落 ムクロジ群落 マテバシイ群落		36	3	39
	IV		ヤブツバキ群落〔個体群〕 サザンカ群落〔個体群〕 ヨシ群落	ツゲ群落 イワシデ群落 トベラ群落 ハマヒサカキ群落 ハマビワ群落 マコモ群落 ツルナ群落 ハマゴウ群落 ボタンボウフウ群落 ハチジョウススキ群落 クスノキ群落〔巨木林〕 キンメイモウソウチク群落		15	0	15
(合計)					89群落	8群落	97群落	

上位のカテゴリーに移行
 下位のカテゴリーに移行
 カテゴリー変更なし

植物群落
植物等
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類
昆虫類
甲殻類等
クモ形類等
貝類

表 群落-1(続き)

	福岡県RDB2011のカテゴリー				掲載 群落数※
	I	II	III	IV	
今回除外 した群落※					0

		今回追加した群落
今回のカテゴリー	I	ハマニンニク群落
	II	イチイガシ群落 ノハナショウブ群落 ウラギク群落 カワラヨモギ群落
	III	ネコヤナギ群落 ウキヤガラ群落 タコノアシ群落
	IV	

- ※ 再選定群落数 …福岡県RDB2011の選定群落のうち、今回（福岡県RDB2024）でも再び選定した群落の数。
 追加群落数 …福岡県RDB2011の選定群落以外で、今回（福岡県RDB2024）において新たに選定した群落の数。
 掲載群落数 …福岡県RDB2024に選定した群落の数。（「再選定群落数」と「追加群落数」の合計）
 今回除外した群落…福岡県RDB2011の選定群落のうち、再評価の結果、今回（福岡県RDB2024）は選定しなかった群落。

* RDB2011シロイヌノヒゲ群落をRDB2024ではシロイヌノヒゲ群落およびサツマアザミ群落に分割した。

** RDB2011スタジイ群落およびツブラジイ群落をRDB2024ではスタジイ・ツブラジイ群落に統合した。

表 群落-2 福岡県RDB2024 掲載植物群落リスト

植生区分	相観区分	群 落 名	RDB2011 カテゴリー	RDB2024 カテゴリー	
ブナクラス域自然植生	落葉広葉樹林	ブナ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ミズナラ群落	Ⅲ	Ⅲ	
	冷温帯針葉樹林	ツガ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		ヒノキ群落〔自然植生〕	Ⅲ	Ⅲ	
		ツクシシャクナゲ群落〈個体群〉	Ⅱ	Ⅲ	
	溪畔林	シオジ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		ケヤキ群落〔ブナクラス〕	Ⅲ	Ⅲ	
	岩角地・風衝地植生	ツゲ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		ゲンカイツツジ群落〈個体群〉	Ⅳ	Ⅲ	
		イワヒバ群落	Ⅱ	Ⅱ	
ツメレンゲ群落		Ⅱ	Ⅱ		
ブナクラス域代償植生	落葉広葉樹二次林	イヌシデ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		二次草原	Ⅲ	Ⅲ	
	二次草原	ミヤコザサ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		クマイザサ群落	Ⅲ	Ⅲ	
ヤブツバキクラス域自然植生	常緑広葉樹林	スダジイ・ツブラジイ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		タブノキ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		ヤブニッケイ群落〔石灰岩地植生〕	Ⅲ	Ⅲ	
		カゴノキ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		アラカシ群落〔石灰岩地植生〕	Ⅲ	Ⅲ	
		ウラジロガシ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		アカガシ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		イチイガシ群落	—	Ⅱ	
	暖温帯針葉樹林	モミ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		カヤ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		イヌマキ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		アカマツ群落〔自然植生〕	Ⅰ	Ⅰ	
	落葉広葉樹林	ケヤキ群落〔ヤブツバキクラス〕	Ⅲ	Ⅲ	
		エノキ群落	Ⅳ	Ⅲ	
		ムクノキ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ムクロジ群落	Ⅳ	Ⅲ	
	沼沢林	ハンノキ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		オオタチヤナギ群落	Ⅱ	Ⅲ	
		ネコヤナギ群落	—	Ⅲ	
	岩角地・風衝地植生	イワシデ群落	Ⅳ	Ⅳ	
	海岸低木群落	ハマボウ群落	Ⅲ	Ⅲ	
	海岸風衝低木群落	トベラ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		ハマヒサカキ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		ハマビフ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		マルバニッケイ群落	Ⅲ	Ⅲ	
	ヤブツバキクラス域代償植生	常緑広葉樹二次林	マテバシイ群落	Ⅳ	Ⅲ
			ヤブツバキ群落〈個体群〉	Ⅲ	Ⅳ
			サザンカ群落〈個体群〉	Ⅲ	Ⅳ
			タマミズキ群落〈個体群〉	Ⅲ	Ⅲ
		落葉広葉樹二次林	コナラ群落	Ⅲ	Ⅲ
クロモジ群落〈個体群〉			Ⅲ	Ⅰ	
常緑針葉樹二次林		アカマツ群落〔代償植生〕	Ⅰ	Ⅱ	
		ヒモヅル群落〈個体群〉	Ⅱ	Ⅲ	
二次草原		ススキ群落〔半自然植生〕	Ⅱ	Ⅱ	

植物群落
植物等
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類
昆虫類
甲殻類等
クモ形類等
貝類

表 群落-2(続き)

植生区分	相観区分	群 落 名	RDB2011 カテゴリー	RDB2024 カテゴリー	
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	中間湿原	シロイヌノヒゲ群落	Ⅱ	Ⅰ	
		ツクシクロイヌノヒゲ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		コイヌノハナヒゲ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		サツマアザミ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ノハナショウブ群落	—	Ⅱ	
		ミヤマシラスゲ群落	Ⅲ	Ⅱ	
		ヌマガヤ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		オオミズゴケ群落<個体群>	Ⅱ	Ⅱ	
	低層湿原	ヨシ群落	Ⅲ	Ⅳ	
		マコモ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		ツクシオオガヤツリ群落	Ⅱ	Ⅲ	
		ウキヤガラ群落	—	Ⅲ	
		タコノアシ群落	—	Ⅲ	
	河辺冠水草原	オギ群落	Ⅱ	Ⅲ	
	浮葉・沈水草原	ヒツジグサ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		ガガブタ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		オグラコウホネ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		セキシヨウモ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ガシャモク群落	Ⅱ	Ⅱ	
		リュウノヒゲモ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		アマモ群落	Ⅲ	Ⅲ	
	塩沼地植生	シオクグ群落	Ⅲ	Ⅲ	
		フクド群落	Ⅰ	Ⅱ	
		ナガミノオニシバ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		シバナ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		ハマサジ群落	Ⅰ	Ⅱ	
		ハママツナ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ヒロハマツナ群落	Ⅱ	Ⅰ	
		アイアシ群落	Ⅱ	Ⅲ	
		ヒトモトスキ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		イセウキヤガラ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ウラギク群落	—	Ⅱ	
	海岸砂丘植生	コウボウムギ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ケカモノハシ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		コウボウシバ群落	Ⅱ	Ⅱ	
		ツルナ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		ハマゴウ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		ハマオモト群落	Ⅱ	Ⅱ	
		カワラヨモギ群落	—	Ⅱ	
		ハマニンニク群落	—	Ⅰ	
	海岸断崖地植生	ダルマガク群落	Ⅲ	Ⅲ	
		ゲンカイワレンゲ群落	Ⅰ	Ⅰ	
		ボタンボウフウ群落	Ⅳ	Ⅳ	
		ハチジョウススキ群落	Ⅳ	Ⅳ	
	植林地・耕作地植生	植林	クロマツ群落	Ⅱ	Ⅱ
			スギ群落〔巨木林〕	Ⅲ	Ⅲ
			クスノキ群落〔巨木林〕	Ⅳ	Ⅳ
キンメイモウソウチク群落			Ⅳ	Ⅳ	

植物群落

植物等

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類等

クモ形類等

貝類

表 群落-3 福岡県RDB2024 掲載群落における各危機要因の合計数

危機要因	群落数	危機要因	群落数	危機要因	群落数
海岸開発	28	産地局限	9	土地造成	3
遷移進行	27	水質汚濁	8	石灰採掘	3
シカ増加	24	病害虫	8	道路工事	2
河川開発	19	踏みつけ	7	ダム建設	1
自然災害	18	湿地開発	6	ため池改修	1
森林伐採	14	競合種拡大	6	植生変化	1
管理放棄	13	湖沼開発	4	その他	29
園芸採取	10	外来種侵入	4		

重複選択のため、合計数は掲載群落数(97群落)と一致しない。

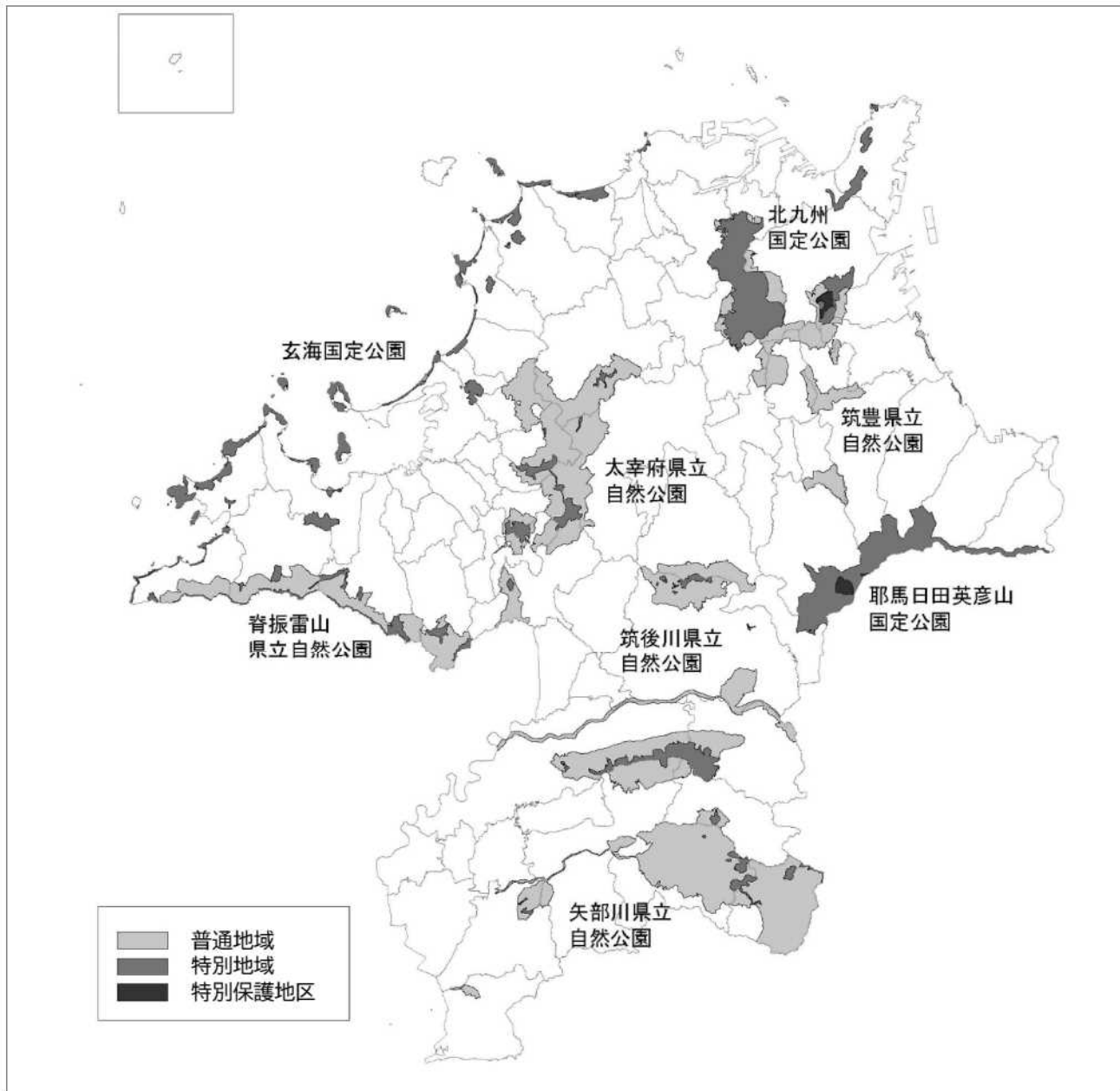


図 群落-1 福岡県の自然公園

表 群落-4 福岡県の環境省特定植物群落一覧

番号	名 称
【1】	部崎のトベラ低木林
【3】	椎田海岸のクロマツ林
【4】	求菩提山のヒメシャガ群落
【5】	求菩提山のアカガシ林
【6】	犬ヶ岳の自然林
【7】	平山観音寺のスタジイ林
【8】	伊川の天疫神社のスタジイ林
【9】	軽子島のゲンカイイワレンゲ群落
【10】	津村島のヤブニッケイ林
【11】	日合神社のスタジイ林
【12】	吉志の天疫神社のスタジイ林
【13】	沼八幡のスタジイ林
【14】	河頭山の照葉樹林
【15】	帆柱山の照葉樹林
【16】	白山神社のタブ林
【17】	荘八幡のスタジイ林
【18】	八旗八幡のスタジイ林
【19】	平尾台の石灰岩台地植物群落
【20】	竜ヶ鼻の自然林
【21】	福智山のケヤキ林
【22】	福智山の自然林
【23】	御所ヶ谷のヒモヅルを含むアカマツ林
【24】	香春岳のイワシデ林
【25】	大法山のスタジイ林
【26】	益富山のスタジイ林
【27】	鷹巣山のミズナラ林
【28】	英彦山のゲンカイイツツジ群落
【29】	英彦山の自然林
【30】	障子ヶ岳のヒノキ林
【31】	小石原の行者杉
【32】	鳥屋山のスタジイ林
【34】	釈迦、御前岳の自然林
【36】	須賀神社のスタジイ林
【37】	芦屋海岸のトベラ低木林
【38】	孔大寺山のスタジイ林
【39】	鐘崎のハマビワ低木林
【40】	さつき松原の海浜植物群落
【41】	さつき松原のポウランを含むクロマツ林
【42】	遠賀川の河辺草本群落
【44】	八所宮のスタジイ林
【45】	城山の自然林
【46】	猪野のスタジイ林
【47】	砥石山のアカガシ林
【48】	三郡・宝満山の自然林
【49】	竈門神社のスタジイ林
【50】	古処山のツゲ林
【51】	高良山のシイ(コジイ)林
【52】	高良山の湿生植物群落
【53】	船小屋のクスノキ林
【54】	清水山のコジイ林
【55】	中津宮のバクチノキを含むスタジイ林
【56】	御岳神社のスタジイ林
【57】	大島のハマヒサカキ低木林
【58】	沖ノ島の自然林
【59】	立花山のクスノキ林

番号	名 称
【60】	雁の巣の海浜植物群落
【61】	志賀島のマテバシイ林
【62】	香椎宮のスタジイ林
【63】	志賀島のスタジイ林
【64】	南公園のスタジイ林
【65】	鴻巣山のマテバシイ林
【66】	春日神社のスタジイ林
【67】	油山のアカマツ林
【68】	筑紫耶馬溪のスタジイ林
【69】	育振山の自然林
【70】	矢部川の河辺草本群落
【71】	柳川のクリーク水生植物群落
【72】	玄界島のハマオモトを含む海浜植物群落
【73】	瑞梅寺川河口の塩沼地植物群落
【74】	彦山海岸の断崖風衝地群落
【75】	幣の松原の砂丘植物群落
【76】	芥屋のハマヒサカキ低木林を含む海岸斜面の植物群落
【77】	姫島のハマオモトを含む海浜植物群落
【78】	貴船神社のスタジイ林
【79】	内尾薬師のアラカシ林
【80】	山田市白馬山のムクロジ林
【81】	織幡神社のイヌマキ林
【82】	犬鳴峠のウラジロガシ林
【83】	黒木町南部の湿原
【84】	和白浜の海浜・塩沼地植物群落
【85】	小呂島のハチジョウススキ群落
【86】	雷山川下流のハマボウ群落
【88】	豊前市大富神社のコジイ林
【89】	東大野八幡宮のスタジイ林
【90】	上野峽のゲンカイイツツジ群落
【91】	岩石山のスタジイ林
【92】	望雲台の岩角地植物群落
【93】	小石原の湿原
【94】	池の山のオグラコウホネ群落
【95】	水巻町鷹見神社のムクノキ林
【96】	三里松原のクロマツ林
【97】	野面の八所宮のスタジイ林
【98】	笠置山のエノキを含む照葉樹林
【99】	篠栗町呑山のクロモジ林
【100】	若杉山のスギ林
【101】	長岩山のサザンカの多いコジイ林
【102】	高良山のモウソウキンメイチク林
【103】	千鳥池の水生植物群落
【104】	油山観音のスタジイ林
【105】	鬼ヶ鼻のアカガシ林
【106】	玄界島のタブ林
【107】	志摩町姫島のマテバシイ林
【108】	白山多賀神社の照葉樹林
【109】	小倉南区お糸池のガシャモク群落
【110】	牛斬山稜線の山地草原
【111】	田川市ロマン스가丘の石灰岩地草原
【112】	鎮国寺の照葉樹林
【113】	大根地山のアカガシ林
【114】	小呂島嶽宮神社の照葉樹林

チャボツメレンゲ群落

カテゴリーI

2011
カテゴリーI

選定理由 岩角地の断崖上に見られる群落である。確認できている群落数は僅かであり、その面積も小さい。生育場所が断崖上であることから、岩体および表土の滑落による群落の消失が危惧される。また、優占種のチャボツメレンゲは、園芸用に採取されることも懸念される。チャボツメレンゲは、RDB2024で絶滅危惧IB類、環境省RL2020で絶滅危惧II類に選定されている。

危機要因 自然災害、園芸採取、産地局限

分布情報 八女市

群落概要 ブナクラス域の多年生草本植物群落。岩角地の断崖上に生育する。群落高は5cmに過ぎず、チャボツメレンゲが優占し、コケ類や地衣類を伴う。チャボツメレンゲ群集に該当する。

特記事項 矢部川県立自然公園特別地域



撮影：須田隆一

アカマツ群落〔自然植生〕

カテゴリーI

2011
カテゴリーI

選定理由 県内では分布地点が限られている。マツノザイセンチュウによるマツ枯れ発生後に、常緑広葉樹の優占度が高まっている群落も存在する。

危機要因 産地局限、病害虫、遷移進行

分布情報 *八女市、*那珂川市、*福智町

群落概要 自然植生としてのアカマツ林は、暖温帯の花崗岩を母岩とする土壌が薄く貧栄養の尾根部や岩場などに成立している。アカマツが高木層を構成し、亜高木層にスダジイやアラカシ、コナラなどを、低木層にソヨゴやネジキ、ヤマツツジなどを伴う。樹齢30年以上のアカマツ個体は、マツノザイセンチュウの影響を受けやすくなるとの報告もある。

特記事項 北九州国定公園特別地域、矢部川県立自然公園特別地域、環境省特定植物群落；90



撮影：須田隆一

ハンノキ群落

カテゴリーI

2011
カテゴリーI

選定理由 低湿地に成立する自然植生であるが、県内ではため池の後背地や丘陵地の平坦な谷底などに断片的に残されているに過ぎない。土地造成などで減少しているほか、ため池の水位管理の変化に伴って消滅した箇所も見られる。

危機要因 湿地開発、土地造成、遷移進行、外来種侵入（ノハカタカラクサ）

分布情報 *北九州市若松区、*北九州市八幡西区、*福岡市東区、福岡市博多区、福岡市中央区、福岡市西区、*福岡市早良区、*大野城市、久山町、みやこ町

群落概要 低湿地に成立する湿生林で、県内では、ため池の後背地や丘陵地の平坦で湿潤な谷底に見られる。群落高は8~16m程度で、高木層にはハンノキが優占し、ほかに、ムクノキ、タブノキなどが混生することもある。亜高木層には、シロダモ、ホルトノキなど、低木層には、ウメモドキ、イヌツゲなど、草本層には、ポントクタデ、ミゾソバ、ヤノネグサ、ハイチゴザサ、コバギボウシ、シラスゲ、ツボスミレなどが生育する。

特記事項 筑豊県立自然公園普通地域



撮影：松本健太郎

クロモジ群落〈個体群〉

選定理由 県内における既知の群落は1か所だけである。当該群落では、遷移進行によって明るい環境を好むクロモジが衰退しつつあるうえ、近年はシカの食害が著しいため、個体数の減少に歯止めがかからず、群落としては成り立たなくなりつつある。クロモジは、RDB2024において絶滅危惧IA類に選定されている。

危機要因 産地局限、遷移進行、シカ増加

分布情報 篠栗町

群落概要 ノグルミヤクヌギ、カラスザンショウなどが約10mの上層、コナラ、クロキ、シロダモなどが4~5mの中層を構成する群落である。この群落の下層に当たる1~2mの層に、ヒサカキやヤブムラサキ、イボタノキなどとともにクロモジが生育している。当該群落は、九州唯一のクロモジの自生地であり、西南限の自生地に該当する。

特記事項 太宰府県立自然公園普通地域、環境省特定植物群落；99

シロイヌノヒゲ群落

選定理由 山地の貧栄養湿地に見られ、一年草のシロイヌノヒゲが優占する。多年草のサツマアザミやカモノハシなどの競合種の繁茂、遷移進行による乾燥化などにより面積が減少または消滅した場所がある。本群落はRDB2011のシロイヌノヒゲ群落のうち、小型の一年草であるシロイヌノヒゲが優占する植生タイプを抽出したもので、今回の見直しにおいてカテゴリーIIからカテゴリーIに変更した。

危機要因 遷移進行、管理放棄、競合種拡大（サツマアザミ、カモノハシ）、その他（イノシシによる攪乱）

分布情報 北九州市小倉南区、*八女市、*豊前市、*東峰村、苅田町、*上毛町、*築上町

群落概要 山地の貧栄養湿地に成立する小型湿生草本群落。群落高は0.3~0.4m。一年生草本のシロイヌノヒゲが優占する。平尾台の湿原では最も過湿の場所に見られ、イトイヌノヒゲ、カリマタガヤ、アリノトウグサ、ハリコウガイゼキショウなどが混生するほか、ムラサキミミカキグサ、モウセンゴケなどの食虫植物、サギソウ、コバトソウなどのラン科植物も生育する。ムラサキミミカキグサ-シロイヌノヒゲ群集に該当する。



撮影：須田隆一

特記事項 北九州国定公園特別地域、苅田町指定天然記念物（広谷湿原）、環境省重要湿地、環境省特定植物群落；83

ツクシクロイヌノヒゲ群落

選定理由 貧栄養なため池の緩傾斜の岸辺で、泥質土砂が堆積した場所に見られる。秋の水位低下に伴い、高さ10~30cm程度の湿生植物からなる群落が形成される。もともと不安定な条件で成立する群落であるが、ため池の改修や管理放棄、イノシシによる強度の攪乱などにより消滅した場所も多い。主構成種のツクシクロイヌノヒゲはRDB2024で絶滅危惧II類に選定されている。本県を基準産地としており、植物種としても貴重である。

危機要因 ため池改修、管理放棄、水質汚濁、その他（イノシシによる攪乱）

分布情報 久留米市、八女市、*行橋市、*豊前市、*上毛町、築上町

群落概要 一年草のツクシクロイヌノヒゲで特徴づけられる小型湿生草本群落で、主に水落し後のため池岸辺に成立し、群落高は10~30cm程度。典型的な場所では、ツクシクロイヌノヒゲやニッポンイヌノヒゲが群生し、サウトウガラシ、ヒナザサ、ミズユキノシタなどが若干混生する。やや砂礫の多い場所ではヒメホタルイやハリイが混生する。

特記事項 環境省特定植物群落；52

コイヌノハナヒゲ群落

カテゴリーI

2011
カテゴリーI

選定理由 山地の貧栄養湿地に見られる群落であり、平尾台の湿原では比較的まとまった面積の群落が維持されているが、山間部に形成された小湿地では、遷移進行に伴う湿原の乾燥化やイヌツグやヤブイバラなどの侵入、周辺樹木の成長による被陰、イノシシによる攪乱などで面積が減少または消滅した場所がある。

危機要因 遷移進行、管理放棄、その他（周辺樹木の成長、イノシシによる攪乱）、自然災害

分布情報 北九州市小倉南区、*行橋市、*豊前市、筑紫野市、苅田町、*上毛町

群落概要 山地の貧栄養湿地に成立する小型湿生草本群落。群落高は0.5m前後で、コイヌノハナヒゲが優占する。平尾台の湿原では、カモノハシ、アリノトウグサ、シロイヌノヒゲなどが混生する。また、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、モウセンゴケなどの食虫植物を伴うほか、サギソウ、トキソウなどのラン科植物も生育する。富栄養化が進行している山間部の湿原では、コブナグサ、チゴザサ、ツボスミレなどが増加する。

特記事項 北九州国定公園特別地域、苅田町指定天然記念物（広谷湿原）、環境省重要湿地、環境省特定植物群落；93（消滅）



撮影：須田隆一

ヌマガヤ群落

カテゴリーI

2011
カテゴリーI

選定理由 久留米市高良台の小さな水流が流れ込むため池の周囲に、かつてはヌマガヤの優占する湿原が見られた。しかし、周辺の開発による水路や水量の変化、競合種の繁茂などにより、群落はほぼ消滅した。現在では、後背地のコナラ低木林内に僅かに生育するのみである。本来の生育環境とは異なるが、個体群が維持されているため、カテゴリーIを踏襲した。ヌマガヤはこの場所が本県唯一の自生地、RDB2024絶滅危惧IA類に選定されている。

危機要因 遷移進行、管理放棄、競合種拡大（ネビキグサ、カモノハシ）、産地局限

分布情報 久留米市

群落概要 湿原に成立する大型湿生草本群落でヌマガヤが優占する。群落高は1～1.3m。湿原中にヌマガヤがパッチ状に生育していた場所は、ネビキグサ、カモノハシ、チガヤなどの生育に押されて個体数が減少し、群落としては壊滅状態にある。

特記事項 環境省特定植物群落；52



撮影：笹富広一郎

ヒツジグサ群落

カテゴリーI

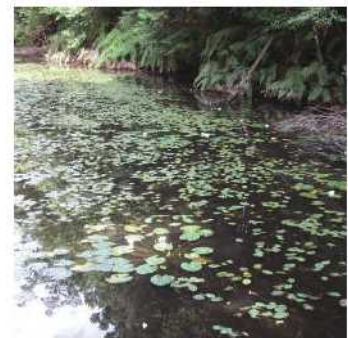
2011
カテゴリーI

選定理由 山間や丘陵地の比較的浅く、貧栄養の池沼に見られる。もともとそれほど多くない自生地は、水質汚濁や池沼の管理放棄、周辺樹木の繁茂による被陰などで、さらに衰退・減少を余儀なくされている。ヒツジグサは種としても今回新たにRDB2024絶滅危惧II類に評価されている。

危機要因 水質汚濁、管理放棄、湖沼開発

分布情報 *田川市、八女市、嘉麻市、*香春町、*赤村、*みやこ町、*上毛町

群落概要 池沼の比較的浅い部分に生育し、ヒツジグサの純群落となる場合が多い。しかし、やや富栄養化が進んだ池沼ではフトヒルムシロ、ホソバミズヒキモ、クロモ、オオトリゲモなどが混生する。また、近年管理放棄により秋口に水落しを行わない池沼が増加しているため、ヒシなどが繁茂する傾向にある。ジュンサイーヒツジグサ群集に該当する。



撮影：松本健太郎

ガガブタ群落

カテゴリーⅠ

2011
カテゴリーⅠ

選定理由 北九州市から京築・田川地区の平地や丘陵地に広がる池沼に生育している。ヒツジグサ群落に比べるとやや低海拔地にあり富栄養化が進んでいることや、農業用水としての役割を終え管理放棄されている池沼が多い。そのため、ヒシやホテイアオイ、ヒメガマ、マコモなどほかの植生の増加が見られ、ガガブタの割合は低下している。種としてはRDB2024絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 水質汚濁、競合種拡大（ヒシ、ヒメガマなど）、湖沼開発

分布情報 *北九州市八幡西区、*田川市、行橋市、豊前市、*苅田町、みやこ町、*上毛町、築上町

群落概要 本来浮遊植物のガガブタが優占する群落だが、富栄養化が進んだ池沼が増加して、ヒシやホテイアオイ、ヒメガマ、マコモなどの間に細々と生育している状況がほとんどである。ガガブターヒシ群集に相当する。



撮影：笹富広一郎

シバナ群落

カテゴリーⅠ

2011
カテゴリーⅠ

選定理由 河川改修や埋立て、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。博多湾では、生育地である干潟の侵食が見られるほか、残存する面積も小さく、特に消滅の危険性が高い。優占種のシバナは、RDB2024絶滅危惧Ⅱ類、環境省RL2020準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 河川開発、海岸開発、その他（海岸侵食、砂泥の供給減少、海面上昇）

分布情報 *北九州市若松区、北九州市八幡西区、福岡市東区、行橋市、築上町

群落概要 塩沼地の砂泥地や泥地に見られ、群落高は0.2～1m程度（ヨシなどが混生の場合1m程度）である。シバナが優占し、ヨシ、シオクグ、フクドなどが低い被度で混生することが多いが、シバナ1種で構成されることもある。塩沼地植生として、最も海側（水深の深い場所）に見られる。シバナ群集に該当する。

特記事項 環境省特定植物群落；84



撮影：松本健太郎

ヒロハマトツナ群落

カテゴリーⅠ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 河川改修、遷移進行、河道の浸食、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。優占種のヒロハマトツナは、RDB2024絶滅危惧ⅠB類、環境省RL2020絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。当群落は2022年現在25㎡程度に減少している。

危機要因 河川開発、海岸開発、遷移進行、その他（河道の浸食、砂泥の供給減少、海面上昇）

分布情報 柳川市

群落概要 塩沼地の泥地に見られ、群落高は0.6～0.8m程度である。一年草であるヒロハマトツナが優占し、純群落を形成するほか、シオクグやシチメンソウが混生する部分も見られる。上述のとおり、現在25㎡程度しか残存しておらず、近年、群落の分布域は大幅に減少している。原因として、河道の浸食や遷移進行が考えられる。



撮影：松本健太郎

ハマニンニク群落

カテゴリーI

2011

選定理由 本群落の優占種であるハマニンニクは福岡県が分布の南限に当たるが、県内では、1か所、約60m²残存しているのみである。1984年の記録と比べると、分布域が大幅に縮小しているものと考えられ、当時の分布域の多くはヨシ群落に変化している。また、地球温暖化の進行による海水面の上昇による影響も懸念される。優占種のハマニンニクは、RDB2024絶滅危惧II類に選定されている。



撮影：松本健太郎

危機要因 海岸開発，遷移進行，その他（砂の供給減少，海面上昇）

分布情報 福岡市東区

群落概要 県内に残っている群落は、満潮線の直上付近で、ハマツナ群落やヨシ群落に接してその上方に見られる。群落高は0.8m程度で、ハマニンニクが優占し、コウボウシバ、ハマツナ、ヨシなどが混生する。1984年の調査においても、本群落は海岸に沿って線上に分布していることが記録されているが、より広範囲に見られたことが当時の図から読み取れる。

特記事項 環境省特定植物群落；84

ゲンカイワレンゲ群落

カテゴリーI

2011
カテゴリーI

選定理由 本群落の優占種であるゲンカイワレンゲは観賞価値があり、園芸用の採取の可能性もある。優占種のゲンカイワレンゲは、RDB2024絶滅危惧IB類に選定されている。



撮影：松本健太郎

危機要因 海岸開発，園芸採取，産地局限

分布情報 北九州市門司区

群落概要 海岸断崖地に見られ、群落高は0.4m程度である。ゲンカイワレンゲが優占し、ハマナデシコ、ハマエノコロ、シマカンギク、テリハノイバラ、メガルカヤ、トベラなどが混生する。

特記事項 環境省特定植物群落；9

ブナ群落

カテゴリーII

2011
カテゴリーII

選定理由 県内では、標高約800m以上の高標高域にのみ分布し、英彦山地、脊振山地、釈迦岳山地、古処山地、三郡山地に見られる。しかし、英彦山では1991年台風被害により多数のブナが枯死し、面積が大きく減少していることに加え、シカ食害による林床植生の貧弱化も生じている。また、本県を含む九州のブナ群落は地球温暖化の影響により潜在生育域外になることが予測されており、群落維持のための積極的な適応策の必要性が指摘されている (Nakao *et al.*, 2013)。



撮影：須田隆一

危機要因 シカ増加，自然災害

分布情報 福岡市早良区，飯塚市，八女市，豊前市，筑紫野市，太宰府市，嘉麻市，朝倉市，糸島市，*那珂川市，宇美町，添田町

群落概要 ブナクラス域自然植生を代表する落葉広葉樹林。英彦山や犬ヶ岳では群落高20mになり、高木層はブナのほかに、ミズナラ、クマシデ、イヌシデなどを伴う。亜高木層はコハウチワカエデ、リョウブ、低木層はシロモジ、オオカメノキ、タンナサワフタギ、ベニドウダン、ツクシシャクナゲなどで構成される。草本層は英彦山地ではクマイザサ、釈迦岳山地ではスズタケ、脊振山地ではミヤコザサが優占する。シラキーブナ群集に該当する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域，太宰府県立自然公園特別地域，筑後川県立自然公園特別地域，矢部川県立自然公園特別地域，脊振雷山県立自然公園特別地域，環境省特定植物群落；6，29，34，48，69。英彦山ではブナ林再生の取組が実施されている

イワヒバ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

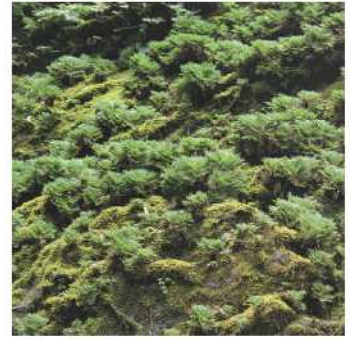
選定理由 岩角地の断崖上に見られる群落であり、英彦山地や釈迦岳山地に見られる。岩体および表土の滑落が生じた場所もあり（1985年の日向神、1991年の英彦山など）、新たな滑落による群落の消失が危惧される。優占種のイワヒバは、手の届くところではほぼ消失しており、園芸用に採取されているものと思われる。

危機要因 自然災害、園芸採取

分布情報 八女市、*東峰村、添田町、築上町

群落概要 ブナクラス域の多年生草本植物群落。岩角地の断崖上に生育する。群落高10cm程度で、イワヒバが優占し、サイコクイワギボウシ、キハギ、シノブ、カタヒバなどが混生し、コケ類や地衣類を伴う。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、矢部川県立自然公園特別地域



撮影：金子洋平

ツメレンゲ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 岩角地の断崖上に見られる群落である。1991年の台風による表土の滑落が生じた場所もあり、新たな滑落による群落の消失が危惧される。優占種のツメレンゲは、特に手に届くところでは園芸用に採取されている。ツメレンゲは、RDB2024で絶滅危惧Ⅱ類、環境省RL2020で準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 自然災害、園芸採取

分布情報 *豊前市、添田町、築上町

群落概要 ブナクラス域の多年生草本植物群落。岩角地の断崖上に生育する。群落高10cm程度で、ツメレンゲが優占し、イワヒバ、シノブなどが混生し、コケ類や地衣類を伴う。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域



撮影：須田隆一

イチイガシ群落

カテゴリーⅡ

2011

選定理由 RDB2011でスダジイ群落、ツブラジイ群落として掲載されていた群落のうち、イチイガシが優占する群落を抽出した。本県のイチイガシ群落は、主に標高100m以下の山麓、丘陵の社叢林に局所的に残存し、いずれも面積2ha未満の狭い林分である。一部の社叢林では間伐や刈払いが行われており、林床植物の貧弱化や更新阻害が懸念される。

危機要因 森林伐採

分布情報 北九州市小倉南区、春日市、宗像市、朝倉市

群落概要 林冠にイチイガシが優占するほか、スダジイ、アラカシ、モチノキなどが見られ、林床にミミズバイ、ヤマモガシ、クロキ、サカキ、ツルコウジ、オオカグマ、イズセンリョウ、オオアリドオシ、ハナミョウガなどが生育する。県内に残るイチイガシ群落は、構成種がスダジイ群落、ツブラジイ群落とほとんど同じであり、ミミズバイ-スダジイ群集の一型に相当する林分が多い。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園普通地域、県指定天然記念物（八所神社の社叢）、県指定天然記念物（志波宝満宮社叢）、春日の森特別緑地保全地区、環境省特定植物群落；18, 44, 66



撮影：笹富広一郎

イヌマキ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 県内では鐘崎にのみ見られる。優占種となっているイヌマキは天然性と考えられ、高木の胸高直径は1m以上に達する。群落内に歩道が設けられ、その周辺で一部人為的影響が見られる。

危機要因 森林伐採

分布情報 宗像市

群落概要 海岸近く、ハマビワ群落に接してその上部に見られる。群落高は20m、胸高直径は110cmに達し、イヌマキが優占する。高木層にはほかにタブノキ、ムクノキなど、亜高木層にはヤブニッケイ、ヤブツバキなど、低木層にはシマモクセイ、ハマビワ、イヌビワ、アオキなど、草本層にはフウトウカズラ、ノシラン、ホソバカナワラビ、ムサシアブミ、マンリョウ、キジヨランなどが生育する。ムサシアブミ-タブノキ群集の一型である。

特記事項 玄海国定公園特別地域、県指定天然記念物（織幡神社のイヌマキ天然林）、環境省特定植物群落；81



撮影：松本健太郎

ムクノキ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 沖積低地の河畔や丘陵地の谷部などに見られる自然植生であるが、県内には3か所、合計4ha程度しか残存していない。河畔の群落では、河川改修や河川管理によって伐採・除去される可能性があり、近年も橋梁の架け替え工事のため、一部伐採された箇所が見られる。丘陵地谷部の群落では、シカによる林床植生の食害が見られる。また、モウソウチクの侵入が見られる箇所もある。

危機要因 河川開発、森林伐採、シカ増加、外来種侵入（モウソウチク）

分布情報 久留米市、嘉麻市、水巻町

群落概要 沖積低地の河畔や丘陵地の谷部などに見られ、標高約5～150mの範囲に残存する。群落高は20m程度、胸高直径は110cm程度に達し、高木層にはムクノキのほか、エノキ、タブノキなどが混生する。亜高木層には、シロダモ、マダケ、バリバリノキなど、低木層には、アオキ、マユミなど、草本層には、ヤブニンジン、カテンソウ、ホソバカナワラビ、クリハラシなどが生育する。ムクノキ-エノキ群集のムクノキ優占林分に相当する。

特記事項 筑後川県立自然公園普通地域、環境省特定植物群落；95



撮影：松本健太郎

アカマツ群落〔代償植生〕

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅠ

選定理由 山林利用の低下などに伴う遷移進行や、マツノザイセンチュウによるマツ枯れで群落の数や面積が減少した。近年は、マツ枯れ被害が低減したこともあり、面積や植生構造の変化が小さい群落もある。

危機要因 遷移進行、病虫害、自然災害

分布情報 福岡市南区、大野城市、那珂川市

群落概要 アカマツが高木層で優占し、コナラやヤマツツジなどの落葉広葉樹、スダジイやタブノキなどの常緑広葉樹を伴う群落である。アカマツ二次林は、かつて暖温帯における山地の尾根から山麓に広く分布していたが、山林利用が減少した1960年代以降は遷移進行やマツ枯れによって減少した。

特記事項 太宰府県立自然公園普通地域、環境省特定植物群落；67



撮影：須田隆一

ススキ群落〔半自然植生〕

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 定期的な草刈りや火入れなどの人為攪乱によって形成・維持されてきた群落である。近年はそのような攪乱の頻度や強度が低下し、遷移が進行している群落がある。

危機要因 管理放棄、遷移進行

分布情報 北九州市小倉南区、*飯塚市、田川市、筑前町、*香春町、*添田町、*福智町、苅田町

群落概要 ススキやネザサが優占し、オトコヨモギやマルバハギ、オカトラノオ、ヤマハッカなどを伴う二次草原である。かつては茅場や秣場などとして利用されるなど、里地里山の主要な構成要素でもあった。1960年代以降はほとんど利用されなくなり、遷移進行や開発によって全国的に面積が減少している。ネザサーススキ群集に該当する。

特記事項 北九州国定公園特別地域、筑豊県立自然公園普通地域、国指定天然記念物（平尾台）、環境省特定植物群落；19、110、111



撮影：須田隆一

サツママアザミ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 標高300～500m前後のやや貧栄養の湿地や緩傾斜の小河川周辺に見られる。平尾台の湿原では比較的まとまった面積の群落が維持されているが、山間部の小湿地では、周辺植生の繁茂による被陰などで減少している。本群落はRDB2011のシロイヌノヒゲ群落のうち、中型の多年草であるサツママアザミやアブラガヤなどが優占する植生タイプを分割したもので、カテゴリーⅡが妥当と評価した。サツママアザミはRDB2024・環境省RL2020で絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 遷移進行、湿地開発、シカ増加、その他（イノシシによる攪乱）

分布情報 北九州市小倉南区、八女市、*豊前市、筑紫野市、*東峰村、苅田町、*上毛町、*築上町

群落概要 サツママアザミ、アブラガヤ、カモノハシなどの中型の湿生植物が優占する草本群落。群落高は0.6～0.9m程度である。平尾台広谷湿原では、チゴザサ、ヒメシロネ、コマツカサススキ、サワヒヨドリ、トダシバなども高頻度で出現する。山間部の湿地では、富栄養化が進行すると、ミゾソバ、アシボソ、カサスゲ、ヘラオモダカなどが増加する。また、湿地の周辺にはノリウツギ、イヌツグ、コムラサキ、ヤブイバラなどが生育する。

特記事項 北九州国定公園特別地域、苅田町指定天然記念物（広谷湿原）、環境省重要湿地、環境省特定植物群落；83



撮影：須田隆一

ノハナショウブ群落

カテゴリーⅡ

2011

選定理由 RDB2024新規掲載群落。ノハナショウブが群生する湿生草原で、平尾台広谷湿原やその周辺で、最も広い面積を占めている。主に二次草原との境界域に見られ、遷移進行に伴う乾燥化などによる面積の減少、ネザサーススキ草原への植生変化が課題となっているため、カテゴリーⅢに評価した。ノハナショウブはRDB2024で絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。ノハナショウブの原種であり、園芸用の採取も懸念されている。

危機要因 遷移進行、管理放棄、園芸採取、シカ増加、その他（イノシシによる攪乱）

分布情報 北九州市小倉南区、筑紫野市、*東峰村、苅田町

群落概要 ノハナショウブで特徴づけられる草本群落。平尾台広谷湿原では、主に二次草原との境界域に成立し、群落高0.8～1m程度である。ノハナショウブの被度は概して50%未満で、ススキ、ネザサ、トダシバなどの乾性草原の構成種が優占することが多い。カモノハシ、アブラガヤ、サツママアザミ、ヒメシロネなどの湿生植物、ワラビ、ゼンマイなどの草原性植物も高頻度で出現する。

特記事項 北九州国定公園特別地域、苅田町指定天然記念物（広谷湿原）、環境省重要湿地



撮影：須田隆一

ミヤマシラスゲ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 傾斜の緩い河畔や池沼の上流域、やや日陰の谷部などに見られる。東峰村には比較的まとまった面積の群落が生息する。優占種のミヤマシラスゲは九州地方では稀であり、本県の生育地は分布の南限域に近い。このため、植物地理学的にも貴重な群落である。遷移進行による湿地の乾燥化や自然災害による土砂流入などにより、面積が減少した場所があるため、今回の見直しにおいてカテゴリーⅢからカテゴリーⅡに変更した。

危機要因 遷移進行, 湿地開発, 自然災害

分布情報 筑紫野市, *那珂川市, *宇美町, 東峰村, *添田町

群落概要 ミヤマシラスゲが優占する湿生植物群落。群落高は0.5~0.6mで、純群落状になる場合もある。群落周辺部ではタニヘゴ, ミゾソバ, ヌマトラノオ, ヒメシロネ, ホソバナヨツバムグラ, ハイチゴザサなどが混生する。概して群落面積が小さく、少しの環境変化で消滅する危険がある。ミヤマシラスゲはシカ不嗜好性であるが、ほかの群落構成種が被食されて組成が貧弱化している場所もある。



撮影: 須田隆一

オオミズゴケ群落<個体群>

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 かつて湿原周辺の貧栄養地では維管束植物の生育が見られず、オオミズゴケの群生する場所が各所に見られた。しかし、園芸用の採取や踏みつけ、湿地の富栄養化や乾性化、ほかの植生の繁茂による被陰などにより群生地は極めて限定されるようになった。貧栄養湿原の植生タイプの一つとして重要である。オオミズゴケはRDB2024で準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 遷移進行, 湿地開発, 園芸採取, 踏みつけ

分布情報 *豊前市, 筑紫野市, *嘉麻市, 東峰村, *赤村, 苅田町, *築上町

群落概要 コケ層にオオミズゴケが優占する個体群であり、群落高5~10cm。その上層にサツマアザミ, ヒメシダ, ハイチゴザサ, ミヤマシラスゲなどの草本やノリウツギやイヌツゲなどの低木が見られる。生育地が富栄養化、乾性化するにつれて、これらの植物のほか、ススキ, ワラビ, ミゾソバ, ヤブイバラなどが増加して、オオミズゴケが減少する。平尾台広谷湿原には上層を欠き、純群落状になっている場所も見られる。



撮影: 松本健太郎

特記事項 北九州国定公園特別地域, 苅田町指定天然記念物(広谷湿原), 環境省重要湿地

オグラコウホネ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 本県では2か所で見られるが、そのうち最大の群落は八女市星野村にある麻生池(東西200m, 南北80m)にある。ここは地滑り跡地にできた自然の池沼で、その全面に生えている。周辺はキャンプ場となり、以前はボート遊走や園芸スイレン植栽など不適切な取り扱いがあったが、現在は改善されている。もう一つは柳川市の水路で少数見られるが、水質汚濁によりオオカナダモやオオフサモなどの外来種繁茂による減少が懸念される。久山町の池沼からは消滅した。種としてはRDB2024絶滅危惧IB類に選定されている。

危機要因 水質汚濁, 外来種侵入(園芸スイレン), 管理放棄

分布情報 *柳川市, 八女市

群落概要 麻生池ではほぼオグラコウホネの純群落である。周辺部に多少マコモが生え、水中にはイヌタヌキモが浮遊している。柳川市ではセキシヨウモ, センニンモなどが生える水路で少数見られる。



撮影: 松本健太郎

特記事項 県指定天然記念物(麻生池のオグラコウホネ自生地), 環境省特定植物群落; 94

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 浮葉・沈水草原

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

セキショウモ群落

選定理由 水が冷たく澄んだ池沼や貧栄養の河川導水路に見られ、築上町（旧椎田町）、上毛町（旧大平村）、朝倉市（旧甘木市）、柳川市などで確認している。しかし、水質汚濁や水温上昇、それに伴うほかの植生繁茂などにより減少傾向にある。また、以前見られたが現在消滅している場所も数多くある。種としてはRDB2024絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 水質汚濁、管理放棄、植生変化

分布情報 *柳川市、*朝倉市、*上毛町、*築上町

群落概要 池沼ではフトヒルムシロやミズスギナなどと混生し、今のところ安定しているが、管理放棄で池沼が被陰される傾向にある。導水路ではパッチ状に分布していて、セキショウモの密度が高いが、場所によりセンニンモ、エビモ、ヤナギモ、ササバモ、クロモなども見られる。一部で生活用水や水田からの流入が見られ、富栄養化が進んだ場所ではオオカナダモやミズハコベ、キクモなどが増加している。

特記事項 環境省特定植物群落；71

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 浮葉・沈水草原

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

ガシャモク群落

選定理由 県内における既知の群落は1か所だけである。近年、群落の面積はほとんど変化していない。ガシャモクは、RDB2024・環境省RL2020において絶滅危惧ⅠA類に選定されている。

危機要因 産地局限、管理放棄

分布情報 北九州市小倉南区

群落概要 沈水植物であるガシャモクが優占し、インバモやイヌタヌキモ、ツツイトモなどを伴う。2000年代初頭にガシャモクが激減したが、地元住民などの保全活動によって復活した。現在も水落しなどの保全活動が継続されている。

特記事項 環境省重要湿地、環境省特定植物群落；109



撮影：真鍋 徹

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 浮葉・沈水草原

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

リュウノヒゲモ群落

選定理由 海岸近くの汽水域の池沼に生育する。本県では響灘から玄界灘沿いの地域で数箇所確認されている。いずれも市街地に近い場所にあり、埋立てや水質汚濁、ごみの不法投棄などにより消滅の危機にある。本種はRDB2024絶滅危惧ⅠB類に選定されている。また同様の場所ではカワツルモ（同絶滅危惧ⅠB類）やツツイトモ（同絶滅危惧ⅠA類）などが群生していることもある。

危機要因 海岸開発、水質汚濁、その他（ごみの不法投棄）

分布情報 *北九州市若松区、*福岡市東区、福岡市中央区、*福岡市西区

群落概要 通常リュウノヒゲモの純群落からなる。その密度は季節や塩分濃度、富栄養の度合いなどにより大きく変化する。富栄養化にもある程度耐性があるため、時に大量発生することがある。



撮影：山根 明

カテゴリー

カテゴリーⅠ

カテゴリーⅡ

カテゴリーⅢ

カテゴリーⅣ

フクド群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅠ

選定理由 河川改修や埋立て、遷移進行、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。優占種のフクドは、RDB2024・環境省RL2020準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 河川開発、海岸開発、遷移進行、その他（海岸浸食、砂泥の供給減少、海面上昇）

分布情報 *北九州市門司区、福岡市東区、福岡市西区、*久留米市、*大川市、行橋市、築上町

群落概要 塩沼地の砂泥地や砂礫地に見られ、群落高は0.5～1.2m程度である。フクドが優占し、ハマサジ、ハママツナ、ヨシ、シオクグなどが混生する。優占種であるフクドは二年草（一回繁殖型多年草）であり、時間の経過に伴って本群落はヨシ群落などに遷移する可能性がある。したがって、塩沼地で新たに形成される裸地（新たな砂州の形成など）が減少すると、本群落が形成され得る立地も減少するものと推測される。フクド群集に該当する。

特記事項 環境省特定植物群落；73，84



撮影：松本健太郎

ナガミノオニシバ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 河川改修や埋立て、遷移進行、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。

危機要因 河川開発、海岸開発、その他（海岸浸食、砂礫の供給減少、海面上昇）

分布情報 *北九州市門司区、*北九州市八幡西区、福岡市西区、行橋市、福津市

群落概要 塩沼地の砂礫地に見られ、群落高は0.2～0.3m程度である。ナガミノオニシバが優占し、ハママツナ、ヨシなどが混生する。ナガミノオニシバ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園普通地域、環境省特定植物群落；73



撮影：松本健太郎

ハマサジ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅠ

選定理由 河川改修や埋立て、遷移進行、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。優占種のハマサジは、RDB2024・環境省RL2020準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 河川開発、海岸開発、遷移進行、その他（海岸浸食、砂礫の供給減少、海面上昇）

分布情報 北九州市門司区、*北九州市小倉南区、福岡市東区、*福岡市西区、行橋市、*豊前市、*築上町

群落概要 塩沼地の砂泥地や砂礫地に見られ、群落高は0.6～1m程度である。二年草（一回繁殖型多年草）であるハマサジが優占し、ヨシ、フクド、ウラギク、イソヤマテンツキなどが混生する。ハマサジ群集に該当する。

特記事項 環境省特定植物群落；73，84



撮影：松本健太郎

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 塩沼地植生

ハマツナ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 河川改修や埋立て、遷移進行、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。

危機要因 河川開発、海岸開発、遷移進行、その他（海岸浸食、砂泥の供給減少、海面上昇）

分布情報 北九州市門司区、福岡市東区、*行橋市、福津市

群落概要 塩沼地の砂泥地に見られ、群落高は0.4m程度である。一年草であるハマツナが優占し、純群落を形成するほか、ホソバハマアカザなどが混生する場合もある。ホソバノハマアカザ-ハマツナ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園普通地域、環境省特定植物群落；84



撮影：松本健太郎

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 塩沼地植生

ヒトモトススキ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 海岸開発、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。県内で比較的稀な植生であり、近年、造成により消滅した箇所も見られる。

危機要因 海岸開発、湿地開発、その他（海面上昇）

分布情報 福岡市東区、宗像市、芦屋町

群落概要 県内では海岸近くの湿地などに見られ、群落高は2～2.5m程度である。ヒトモトススキが優占し、純群落を形成するほか、ヨシ、スズメウリ、アオツラフジ、テリハノイバラなどが僅かに混生する場合もある。ヒトモトススキ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、環境省特定植物群落；84



撮影：松本健太郎

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 塩沼地植生

イセウキヤガラ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 河川改修や埋立て、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。県内での分布は筑後川や沖端川の河口近くの塩沼地に限られる。優占種のイセウキヤガラは、RDB2024絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 河川開発、その他（砂泥の供給減少、海面上昇）

分布情報 柳川市、大川市

群落概要 塩沼地の泥地に見られ、群落高は0.3～0.4m程度である。イセウキヤガラが優占し、純群落を形成するが、陸側（水深の浅い場所）ではヨシを混生する場合もある。塩沼地植生として、最も海側（水深の深い場所）に見られ、陸側ではヨシ群落と接する機会が多い。イセウキヤガラ群集に該当する。



撮影：松本健太郎

ウラギク群落

選定理由 河川改修や埋立て、遷移進行、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。優占種のウラギクは、RDB2024絶滅危惧IB類、環境省RL2020準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 河川開発、海岸開発、遷移進行、その他（海岸浸食、砂泥の供給減少、海面上昇）

分布情報 北九州市八幡西区、福岡市東区

群落概要 塩沼地の泥地や砂泥地に見られ、群落高は0.9～1.4m程度である。ウラギクが優占し、ヨシ、ホソバハマアカザ、シバナ、ハマサジなどが混生する。



撮影：松本健太郎

コウボウムギ群落

選定理由 防潮護岸の建設や飛砂防止工事、海岸浸食などにより消失する危険性があるほか、外来種のコマツヨイグサやオオフトアムグラなどの侵入も見られる。近年、県内の砂浜では浸食が広く見られ、その影響が懸念される。

危機要因 海岸開発、その他（海岸浸食、植林）

分布情報 福岡市東区、*福岡市西区、宗像市、糸島市、*芦屋町、岡垣町

群落概要 砂の移動が激しく、海からの塩分や強風の影響を強く受ける砂丘最前線の不安定な立地に形成される。群落高は0.1～0.3m程度である。コウボウムギが優占し、ハマボウフウ、ハマニガナ、オニシバ、ネコノシタ、ビロードテンツキ、ハマヒルガオなどが混生する。ハマグルマ（ネコノシタ）-コウボウムギ群集に該当する。



撮影：松本健太郎

特記事項 玄海国定公園特別地域、環境省特定植物群落；40，60，75

ケカモノハシ群落

選定理由 飛砂防止工事や防潮護岸の建設、海岸浸食などにより消失する危険性があるほか、外来種のコマツヨイグサやオオフトアムグラなどの侵入も見られる。

危機要因 海岸開発、その他（海岸浸食、植林）

分布情報 福岡市東区、宗像市、*糸島市、*芦屋町、岡垣町

群落概要 砂丘のやや不安定な立地に成立し、コウボウムギ群落に接してその内陸側に見られることが多い。群落高は0.3～0.4m程度である。ケカモノハシが優占し、コウボウムギ、ハマニガナ、ハマボウフウ、ネコノシタ、カワラヨモギ、ハマヒルガオ、ハマオモトなどが混生する。ハマグルマ（ネコノシタ）-ケカモノハシ群集に該当する。



撮影：松本健太郎

特記事項 玄海国定公園特別地域、環境省特定植物群落；40，60，75

コウボウシバ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 防潮護岸の建設や飛砂防止工事，海岸浸食などにより消失する危険性がある。

危機要因 海岸開発，その他（海岸浸食，植林）

分布情報 福岡市東区

群落概要 砂丘の平坦でやや湿潤な立地に見られ，群落高は0.2～0.6m程度である。コウボウシバが優占し，オカヒジキ，ハマダイコン，ハマヒルガオ，ギョウギシバ，イソホウキギ，ハマサジなどが混生する。

特記事項 玄海国定公園特別地域，環境省特定植物群落；40，60，75，84



撮影：松本健太郎

ハマオモト群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 筑前海沿岸の海岸砂浜に見られる。姫島では植栽クロマツの成長および遷移進行により面積が減少した。また，玄界島でも周回道路の建設により面積が縮小した。そのほかの生育地でも防潮護岸の建設，飛砂防止工事などにより消滅する危険性がある。優占種のハマオモトはRDB2024で絶滅危惧Ⅱ類に選定されており，園芸用の採取などが懸念されている。

危機要因 海岸開発，園芸採取，踏みつけ

分布情報 *福岡市東区，福岡市西区，*宗像市，糸島市，*新宮町，*芦屋町，*岡垣町

群落概要 ハマオモトが優占する草本群落。群落高0.6～1m程度で，礫質または砂質海岸の汀線やその内陸側に線状または帯状に生育する。ハマオモトのほか，ハマダイコン，ハマサオトメカズラ，ハマナタマメなどの海岸植物，チガヤ，ギシギシ，ツルボなどの路傍植物が混生する。芦屋町夏井ヶ浜の群落は管理されており，純群落状になっている。

特記事項 玄海国定公園特別地域，福岡県大島自然環境保全地域，県指定天然記念物（夏井ヶ浜のハマユウ自生地），環境省特定植物群落；72，77



撮影：須田隆一

カワラヨモギ群落

カテゴリーⅡ

2011

選定理由 飛砂防止工事や防潮護岸の建設，海岸浸食などにより消失する危険性があるほか，外来種のコマツヨイグサやオオフトアムグラなどの侵入も見られる。海岸砂丘植生の中では比較的内陸側に成立する機会が多いため，植林を含む飛砂防止工事による影響を受けやすい。

危機要因 海岸開発，その他（海岸浸食，植林）

分布情報 福岡市東区，宗像市，糸島市，岡垣町

群落概要 砂丘のやや不安定な立地に成立し，コウボウムギ群落やケカモノハシ群落に接してその内陸側に見られることが多い。群落高は0.1～0.6m程度である。カワラヨモギが優占し，チガヤ，ケカモノハシ，オニシバ，ネコノシタ，ハマボウフウ，ピロードテンツキ，ハマベノギク，ハマハタザオ，ハマアオスゲ，ハマオモトなどが混生する。

特記事項 玄海国定公園特別地域，環境省特定植物群落；40，60，75



撮影：松本健太郎

クロマツ群落

カテゴリーⅡ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 かつてほどではないが、マツノザイセンチュウによるクロマツの枯死が見られる。シロダモやタブノキ、ヒメユズリハ、クスノキなどの侵入・成長が著しく、常緑広葉樹林化している群落もある。

危機要因 病害虫、遷移進行

分布情報 *福岡市東区、*福岡市西区、宗像市、*古賀市、*福津市、*糸島市、*新宮町、*芦屋町、*岡垣町、築上町

群落概要 暖温帯の沿岸域に砂防や防潮などの目的で植林された群落である。クロマツが高木層を形成し、下層にヤブニッケイ、ヒメユズリハ、クスノキなどの常緑広葉樹を伴う。三里松原（岡垣町・芦屋町）やさつき松原（宗像市）、新宮松原（新宮町）などでは、保全活動が行われている。

特記事項 玄海国定公園特別地域、筑豊県立自然公園普通地域、環境省特定植物群落；3, 41, 75, 96



撮影：須田隆一

ミズナラ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 鷹ノ巣山では、ミズナラ実生が見られる林分もあるが、多くの林分ではシカ食害の影響が大きく、林床植生は貧弱化している。県内では、ヤブツバキクラス域のマテバシイ群落を中心にナラ枯れ被害が進行しているが、優占種のミズナラはナラ枯れへの感受性が特に高い種であるため、これらの林分にナラ枯れ被害が拡大しないよう対策を取る必要がある。

危機要因 シカ増加、病害虫

分布情報 *福岡市早良区、豊前市、*糸島市、添田町、*築上町

群落概要 ブナクラス域の落葉広葉樹林。群落高17mになり、高木層はミズナラのほかに、クマシデ、アカシデ、イヌシデ、コハウチワカエデなどを伴う。亜高木層はリョウブ、シラキ、アオハダ、低木層はタンナサワフタギ、ネジキ、コバノミツバツツジなどで構成される。草本層は鷹ノ巣山ではスズタケが優占するが、全く伴わない林分もある。リョウブ・ミズナラ群集に該当する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、環境省特定植物群落；6, 27



撮影：金子洋平

ツガ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 ブナクラス域のやや乾燥している岩地や尾根筋に見られる。英彦山地では、1991年台風により表土ごと滑落し大きな被害が生じており、新たな滑落による群落の消失が危惧される。また、シカ食害の影響により、林床植生が貧弱化している。

危機要因 自然災害、シカ増加

分布情報 *八女市、豊前市、添田町

群落概要 ブナクラス域の常緑針葉樹林（ヤブツバキクラス域の上部に位置づける場合もある）。急傾斜地や露岩地に生育する。群落高20mになり、高木層はツガのほかに、モミなどを伴う。亜高木層はコハウチワカエデのほか、アカガシ、ウラジロガシなどが混生する。低木層はハイノキのほか、シラキ、シキミ、ヒサカキなどが混生する。ハイノキ・ツガ群集に該当する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、矢部川県立自然公園特別地域、英彦山モミ等遺伝資源希少個体群保護林



撮影：金子洋平

ヒノキ群落〔自然植生〕

選定理由 英彦山地の岩崖上には、ヒノキ自然林が成立しているが、その規模は小さい。また、障子ヶ岳や望雲台の群落は、1991年の台風により甚大な被害を受け、いまだ回復途上である。林床植物にはシカの食痕が部分的に見られるが、岩角地のため比較的被害は少ない。優占種のヒノキは、RDB2024で準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 自然災害、シカ増加

分布情報 添田町

群落概要 ブナクラス域の常緑針葉樹林。岩角地の断崖上に生育する。群落高30mになり、高木層はヒノキのほか、アカガシ、ブナ、ツガなどを伴う。亜高木層はあまり発達せず、ネジキ、リョウブなどが見られ、低木層はアセビ、ハイノキ、ツクシシャクナゲなどで構成される。草本層はツルシキミ、ミヤマシグレ、シシガシラなどが混生する。ツクシシャクナゲ-ヒノキ群集に該当する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、環境省特定植物群落；30, 92



撮影：金子洋平

ツクシシャクナゲ群落〈個体群〉

選定理由 ブナクラス域のブナ林やアカガシ林などの低木層に見られる。林道沿いの植分では強度の踏みつけが生じているところがあり、またツクシシャクナゲは園芸用に採取される可能性がある。一方、林床を覆っていたクマイザサやスズタケが、シカの被食圧で矮小化したことなどで本種の生育は良好になっており、特に英彦山地では増加傾向にあることから、カテゴリーⅢに変更した。

危機要因 園芸採取、踏みつけ

分布情報 *福岡市早良区、八女市、豊前市、太宰府市、宇美町、*添田町

群落概要 ブナクラス域自然植生の低木個体群。シラキー-ブナ群集、ツクシシャクナゲ-ヒノキ群集の低木層に見られるツクシシャクナゲ個体群を抽出したもの。英彦山地、三郡山地、釈迦岳山地、脊振山地の稜線部に見られ、低木層・草本層には、ツクシシャクナゲのほか、ハイノキ、オオカメノキ、ツルシキミなどを伴い、通常ササ類を欠く。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、太宰府県立自然公園特別地域、矢部川県立自然公園特別地域、脊振雷山県立自然公園特別地域、国指定天然記念物（犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地）、特定植物群落；6, 29, 34, 48, 69



撮影：須田隆一

シオジ群落

選定理由 大きな礫が崩積した英彦山地などの深谷斜面に見られる。優占種のシオジにはシカ食害が見られないものの、群落構成種であるツリバナやハナイカダなどの低木層・草本層の植物はシカの食害を受けており、林床植生が貧弱化している。

危機要因 自然災害、シカ増加

分布情報 *豊前市、添田町

群落概要 ブナクラス域の落葉広葉樹林。群落高は30mに達し、高木層はシオジのほか、サワグルミ、ミズメ、オニイタヤなどが混生する。亜高木層や低木層はチドリノキ、ヒナウチワカエデ、ヒコサンヒメシヤラ、ツリバナ、ハナイカダなどで構成され、草本層はミヤマクマワラビが優占し、イワガラミ、ツルアジサイ、コミヤマカタバミなどが生育する。ミヤマクマワラビ-シオジ群集に該当する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、英彦山モミ等遺伝資源希少個体群保護林、特定植物群落；29



撮影：松本健太郎

ケヤキ群落〔ブナクラス〕

選定理由 英彦山地や石割岳など、ブナクラス域の礫が多い溪谷斜面に見られる。石割岳では、1991年の台風被害によりヤマザクラの多くが衰退・枯死し、ケヤキ優占林となった群落であり、林分の規模は小さいものの保存状況はおおむね良好である。一方、英彦山地では、シカ食害による林床植生の貧弱化が進行しており、後継樹の更新阻害が危惧される。

危機要因 シカ増加、自然災害

分布情報 八女市、添田町

群落概要 ブナクラス域の落葉広葉樹林。群落高は20mになり、高木層はケヤキのほか、クマノミズキ、ヤマザクラ、サワグルミなどが混生する。亜高木層にはリョウブ、アオハダ、シラキなど、低木層にはアブラチャン、サイゴクイボタ、ハナイカダなどが多い。草本層はミヤマクマワラビが優占し、イワガラミ、ツルアジサイ、ジューモンジシダなどが生育する。シオジ群落に組成が似た群落である。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、英彦山モミ等遺伝資源希少個体群保護林、八女市指定天然記念物（石割岳山桜群生林）



撮影：金子洋平

ゲンカイツツジ群落〈個体群〉

選定理由 英彦山地や福智山地の岩角地に点在し、多くは保存状況良好であるが、優占種のゲンカイツツジは園芸用に採取される可能性がある。また、英彦山地では、1991年台風により表土ごと滑落した場所もあり、新たな滑落による群落の消失が懸念される。ゲンカイツツジは、RDB2024で準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 園芸採取、自然災害

分布情報 *豊前市、*東峰村、添田町、福智町、築上町

群落概要 ブナクラス域自然植生の低木個体群。英彦山地や福智山地の岩角地に生育する。高木・亜高木層はアカマツ、ツガ、ヒノキ、ミズナラなどがまばらに生えるか、これらを欠くところもある。低木層はゲンカイツツジのほか、イソノキ、ナンキンナナカマド、ネジキ、ヤマツツジ、タカノツメなどを伴い、草本層はサイコクイワギボウシ、イワヒバ、シノブなどが混生する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、北九州国定公園特別地域、県指定天然記念物（岩屋のげんかいつつじ）、環境省特定植物群落；28, 90



撮影：金子洋平

イヌシデ群落

選定理由 県内では、標高約500m以上に広く見られる群落である。かつては薪炭利用や道路建設などにより被害を受けた群落であるが、現在は高さ15m、胸高直径40cm程度に成長した群落も見られるようになっている。保存状況は概して良好であるが、シカの生息密度が高い地域では、林床植物の貧弱化および更新阻害が生じている。

危機要因 シカ増加、遷移進行

分布情報 北九州市小倉南区、福岡市早良区、直方市、飯塚市、豊前市、筑紫野市、太宰府市、嘉麻市、朝倉市、*糸島市、宇美町、福智町

群落概要 ヤブツバキクラス域上部～ブナクラス域の落葉広葉樹林。群落高は15m程度になり、イヌシデやアカシデのほか、ヤマボウシ、ウリハダカエデ、コシアブラなどを伴う。亜高木層や低木層には、タンナサワフタギ、ケクロモジ、ツリバナなどの落葉樹のほか、ヤブツバキ、シロダモ、カゴノキなどの常緑樹が混生する。草本層にはコガクウツギ、シシガシラ、ウンゼンカンアオイなどが生育する。アカシデーイヌシデ群落に該当する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、北九州国定公園特別地域、太宰府県立自然公園特別地域、筑後川県立自然公園特別地域、脊振雷山県立自然公園特別地域、環境省特定植物群落；6, 21, 69



撮影：金子洋平

ミヤコザサ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 ミヤコザサは、脊振山地稜線部のブナ林などの下層植生として広く分布しているが、草原を形成している場所は限られている。草原としては、脊振山から椎原峠へかけての稜線や、雷山から井原山へかけての稜線一帯に見られ、概して良好に維持されているが、植分によっては低木が侵入しつつある。以前は馬見山にも分布していたが、シカ食害によりほぼ消滅している。

危機要因 遷移進行

分布情報 福岡市早良区、*糸島市

群落概要 ミヤコザサが優占する草本群落。ミヤコザサが密生するほか、リョウブ、ネジキ、イヌツゲ、コバノミツバツツジ、コガクウツギなどの低木を散生する。

特記事項 脊振雷山県立自然公園特別地域



撮影：笹富広一郎

クマイザサ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 クマイザサは、英彦山地稜線部のブナ林などの下層植生として広く分布するが、県内で草原を形成している場所は限られており、長年草原として成立しているのは福智山地山頂部付近のみである。英彦山では、1991年台風による大規模風倒被害により草原状と化した場所があるが、ブナ林再生の取組が進められており、高木層の回復に伴い面積は減少していくと推測される。

危機要因 遷移進行、シカ増加

分布情報 北九州市小倉南区、直方市、添田町、福智町

群落概要 ブナクラス域のクマイザサが優占する草本群落で、山頂部斜面に見られる。クマイザサが密生するほか、リョウブ、ネジキ、タンナサワフタギ、イヌツゲ、コガクウツギ、コツクパネウツギなどの低木を散生する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、北九州国定公園特別地域



撮影：金子洋平

スダジイ・ツブラジイ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 スダジイ群落、ツブラジイ群落は、西日本では最も代表的な照葉樹林である。県内では伐採後に再生した二次林は広く見られるが、自然林（それに近い林分を含む）はほとんどなく、神社の社叢や内陸の山地に局所的に残存するのみである。社叢では林縁部の伐採による乾燥化、モウソウチクの侵入、内陸の山地ではシカの食害による林床植物の減少、更新阻害が懸念される。

危機要因 シカ増加、森林伐採、競合種拡大（モウソウチク）、自然災害、病害虫

分布情報 北九州市門司区、北九州市小倉南区、福岡市東区、福岡市中央区、飯塚市、豊前市、宗像市、太宰府市、嘉麻市、朝倉市、みやま市、那珂川市、久山町

群落概要 林冠にスダジイまたはツブラジイが優占し、林床にヤブツバキ、ミミズバイ、イズセンリョウ、コバンモチ、オオカグマ、ハナミョウガなどが見られる。特に低海拔の丘陵の林分ではホルトノキ、ヒメユズリハ、タイムンタチバナ、ホソバカナワラビ、内陸の山地の林分ではシイモチ、シロバイ、カンザブロウノキ、ヤマモガシ、ヤマヒハツ、リンボク、トキワガキなどを伴う。ミミズバイー・スダジイ群集、ヤブコウジー・スダジイ群集などに該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、太宰府県立自然公園普通地域、筑後川県立自然公園特別地域、矢部川県立自然公園特別地域、福岡県猪野自然環境保全地域、環境省特定植物群落；7, 8, 11, 12, 13, 17, 18, 25, 26, 32, 36, 38, 44, 46, 49, 51, 54, 55, 56, 62, 63, 64, 66, 68, 78, 88, 89, 91, 97, 104, 都市部では特別緑地保全地区に指定されている所もある



撮影：須田隆一

ヤブツバキクラス域自然植生 常緑広葉樹林

タブノキ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 本群落は、沿岸の低地、丘陵、離島などに見られ、タブノキが優占し、主にヤブニッケイ、シロダモ、モチノキ、ホルトノキなどの鳥散布種子をつける樹種で構成される。沖ノ島では各所で高木層のタブノキが倒れてギャップが生じている。また、夏季にオオミズナギドリが飛来し、土中に横穴を掘って営巣するため、地表面の攪乱による更新の阻害が懸念される。

危機要因 その他（オオミズナギドリによる攪乱）、自然災害、森林伐採

分布情報 北九州市若松区、福岡市西区、宗像市

群落概要 本群落は、林冠にタブノキが優占するほか、ヤブニッケイ、ホルトノキ、オガタノキ、モチノキ、カゴノキなどが見られ、林床にはヤブツバキ、アオキ、サンゴジュなどの低木、ムサシアブミ、ノシラン、フウトウカズラ、ホソバカナワラビなどの草本を伴う。沖ノ島では出現種数は少ないものの、林床にオオタニワタリ、ヒゼンマユミなどの南方系植物が特徴的に出現する。ムサシアブミ-タブノキ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、福岡県沖ノ島自然環境保全地域、国指定天然記念物（沖の島原始林）、環境省特定植物群落；16, 58, 106



撮影：須田隆一

ヤブツバキクラス域自然植生 常緑広葉樹林

ヤブニッケイ群落〔石灰岩地植生〕

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 平尾台のカルスト台地では、火入れの影響を受けにくいドリーネ内に好石灰岩植物を伴うヤブニッケイ群落が発見される。津村島も石灰岩地でヤブニッケイが優占する群落があるが、平尾台のような好石灰岩植物は見られない。なお、津村島は、新門司の埋立て計画が変更されて、現在は親水緑地の一部として島が残されている。平尾台では石灰採掘に伴う群落の消失が懸念される。

危機要因 石灰採掘

分布情報 北九州市門司区、北九州市小倉南区、行橋市、苅田町

群落概要 平尾台では林冠にヤブニッケイ、シロダモなどのクスノキ科樹木が優占し、シイ・カシ類をほとんど伴わず、エノキ、コバノチョウセンエノキ、クマノミズキなどの落葉樹が混じる。林床にヤマヤブソテツ、オモト、オニシバリなどが見られるほか、露岩にはタチデンド、クモノシダなどの好石灰岩植物が着生する。ヤマヤブソテツ-ヤブニッケイ群集に該当する。

特記事項 北九州国定公園特別地域、筑豊県立自然公園普通地域、国指定天然記念物（平尾台）、環境省特定植物群落；10, 19

ヤブツバキクラス域自然植生 常緑広葉樹林

カゴノキ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 城山の標高200~300m付近でウラジロガシ群落に隣接してカゴノキが優占する群落が分布している。分布面積は小さい。皿倉山にもこれに類似する群落が見られる。現時点では顕著ではないが、将来的にシカの食害による林床植物の減少、更新阻害が懸念される。

危機要因 シカ増加、森林伐採

分布情報 *北九州市八幡東区、宗像市、岡垣町

群落概要 本群落は、ミズバイ-スダジイ群集、イスノキ-ウラジロガシ群集域の岩屑が多い場所などに部分的に見られる群落である。高木層にカゴノキが優占するほか、タブノキ、ムクノキなどが混じり、シイ・カシ類は欠かか低い被度で出現する。低木層にホソバタブ、アオキ、ヤブツバキが高い被度で見られる。中国、四国の瀬戸内海側の降水量が少ない地域に見られるカゴノキ群集とは種組成、立地ともに異なる。

特記事項 城山タブノキ等希少個体群保護林、環境省特定植物群落；45

アラカシ群落〔石灰岩地植生〕

選定理由 石灰岩地の尾根や急崖地の露岩が多い場所に特徴的に見られる土地的極相林で、アラカシが優占し、そのほかのシイ・カシ類を欠く。林内にはコバノチョウセンエノキ、シロバナハンショウヅル、キドイノモトソウなどの好石灰岩植物が生育する。荊田町の林分では風倒によるギャップが目立ち、香春町の林分ではタブノキ、ヤブニッケイが侵入し被度が高くなるなど群落の衰退が懸念される。

危機要因 自然災害、シカ増加、石灰採掘

分布情報 香春町、荊田町

群落概要 荊田町の林分では、高木層は12~16mでアラカシが優占するほか、ムクノキ、コバノチョウセンエノキ、ニガキ、亜高木層にはアラカシ、ヤブニッケイ、シロダモ、ノグルミなど、低木層にはナンテン、ピワ、アオキなどが見られ、露岩が多い草本層にはマメヅタ、ナガバジャノヒゲが多いほか、クスドイゲ、シロバナハンショウヅル、ヤブソテツ、ヒメカナワラビ、オオパノイノモトソウなどが生育する。ナンテン-アラカシ群集に該当する。

特記事項 筑豊県立自然公園普通地域、環境省特定植物群落；24, 79



撮影：笹富広一郎

ウラジロガシ群落

選定理由 本群落は、県内では普通、標高約200~500mの山地尾根、斜面に成立し、ウラジロガシまたはイスノキが優占する群落である。近年のシカ食害の増加によって林床植物の減少、更新の阻害が懸念される。

危機要因 シカ増加、森林伐採

分布情報 福岡市早良区、久留米市、飯塚市、宗像市、久山町、岡垣町、香春町

群落概要 城山、高良山、筑紫耶馬溪、犬鳴峠、笠置山では林冠にウラジロガシまたはイスノキが優占するほか、ツブラジイ、アカガシ、ツクバネガシ、林床にはバリバリノキ、シキミ、キジノオシダなどが混じる。石灰岩の影響が強い香春岳ではイスノキを欠き、イワシデ、イワツクバネウツギ、パイカウツギ、シロバナハンショウヅルなどの好石灰岩植物が出現する。イスノキ-ウラジロガシ群集に該当する。

特記事項 太宰府県立自然公園普通地域、筑豊県立自然公園普通地域、城山タブノキ等希少個体群保護林、環境省特定植物群落；24, 45, 68, 82, 98



撮影：笹富広一郎

アカガシ群落

選定理由 本群落は、ヤブツバキクラス域上部に分布し、県内では普通、標高約600~900mの斜面中部から尾根筋に成立するが、北九州市の帆柱山では標高450m付近に本群落が見られる。宗像市の孔大寺山の標高290m付近にもアカガシが優占する林分があるが、ほかに比べて標高が低い箇所があり、群落の構成種はミミズバイースダジイ群集に近い。近年のシカ食害の増加によって林床植物の減少、更新の阻害が懸念される。

危機要因 シカ増加、森林伐採

分布情報 北九州市小倉南区、北九州市八幡西区、福岡市早良区、飯塚市、豊前市、筑紫野市、太宰府市、宇美町

群落概要 帆柱山のアカガシ群落では、高木層は14~16mでアカガシが優占するほか、ウラジロガシ、タブノキ、イヌシデなどが見られ、亜高木層にはアカガシ、ヤブニッケイ、カゴノキ、低木層には、アオキ、イヌガシ、シキミ、ハインキ、草本層にはツルシキミ、オオキジノオ、キジノオシダ、ベニシダなどが生育する。ミヤマシキミ-アカガシ群集およびイスノキ-ウラジロガシ群集のアカガシ優占林分に相当する。

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域、北九州国定公園特別地域、太宰府県立自然公園特別地域、脊振雷山県立自然公園特別地域、大根地アカガシ等希少個体群保護林、環境省特定植物群落；5, 15, 22, 47, 48, 105, 113



撮影：笹富広一郎

モミ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 シカの食害によって林床植生が貧弱化している群落が存在する。それらの群落では、モミなどの主要樹種の稚樹密度も低く、天然更新が望めない可能性もある。台風や降雨の激甚化などによる群落に対する攪乱頻度・強度の高まりが懸念される。

危機要因 シカ増加, 自然災害

分布情報 *筑紫野市, 太宰府市, *朝倉市, 添田町

群落概要 暖温帯上部から冷温帯下部に成立するモミを優占種とする群落で、まとまった面積を持つ群落は限られている。モミが高木層で優占し、シキミやハイノキなどを高頻度で伴う。アカガシやウラジロガシ、ヤブツバキ、シキミなどの常緑広葉樹、ブナやコハウチワカエデ、シラキなどの落葉広葉樹が混生する。シキミ-モミ群集に該当する。



撮影: 松本健太郎

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域, 太宰府県立自然公園特別地域, 筑後川県立自然公園特別地域, 英彦山モミ等遺伝資源希少個体群保護林, 環境省特定植物群落; 29, 48

カヤ群落

カテゴリーⅢ

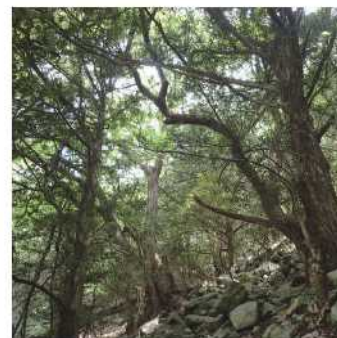
2011
カテゴリーⅢ

選定理由 県内では石灰岩地である竜ヶ鼻のごく一部にのみ見られる。シカによる林床植生の食害が見られる。

危機要因 森林伐採, シカ増加

分布情報 香春町

群落概要 竜ヶ鼻の谷部でケヤキ群落に隣接して見られる。群落高は16m程度、胸高直径は120cm程度（カヤの胸高直径は約70cm）に達し、高木層にはカヤのほか、ムクノキ、ケヤキなどが混生する。亜高木層には、カヤ、イロハモミジ、シロダモなど、低木層には、イヌビワ、イヌガシ、ナワシログミなど、草本層には、イタビカズラ、キジョラン、ヤブソテツ、ジャノヒゲ、ヤマカシュウ、ヤマアイなどが生育する。



撮影: 松本健太郎

特記事項 筑豊県立自然公園普通地域, 環境省特定植物群落; 105

ケヤキ群落〔ヤブツバキクラス〕

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

選定理由 暖温帯の山地谷部の主要な自然植生であるが、県内には5か所、合計15ha程度しか残存していない。一部でシカによる林床植生の食害が見られるほか、隣接地にモウソウチクが生育していて群落内への侵入が懸念される箇所も見られる。

危機要因 森林伐採, シカ増加

分布情報 北九州市小倉南区, 豊前市, 糸島市, 宇美町, 香春町

群落概要 県内では標高約300~700mの山地谷部に残存する。群落高は20m程度、胸高直径は140cm程度に達し、高木層にはケヤキのほか、ムクノキ、ミズキ、シラカシ、タブノキなどが混生する。亜高木層には、イロハモミジ、カヤ、ホソバタブなど、低木層には、アオキ、モミジウリノキ、アブラチャン、マユミなど、草本層には、ヤマアイ、オオキツネノカミソリ、ジウモンジシダなどが生育する。イロハモミジ-ケヤキ群集に該当する。



撮影: 松本健太郎

特記事項 耶馬日田英彦山国定公園特別地域, 北九州国定公園特別地域, 太宰府県立自然公園特別地域, 筑豊県立自然公園普通地域, 環境省特定植物群落; 20, 21, 48

エノキ群落

選定理由 沖積低地の河畔などに見られるが、県内には2か所、合計1ha程度しか残存していない。河川改修や河川管理によって伐採・除去される可能性がある。RDB2011では、低山地上部の山城跡周辺などに見られる小規模群落を本群落に該当するものとしていたが、今回の見直しにおいて再定義し、沖積低地の河畔に成立する群落を対象とすることとした。あわせてカテゴリーも見直した。

危機要因 河川開発

分布情報 久留米市

群落概要 沖積低地の河畔で確認された。群落高は15m程度、胸高直径は90cm程度に達し、高木層にはエノキのほか、ムクノキなどが混生する。亜高木層には、マダケなど、低木層には、シロダモ、ヤブツバキ、マサキなど、草本層には、ジャノヒゲ、ムラサキケマン、テイカカズラ、マンリョウなどが生育する。ムクノキ-エノキ群集のエノキ優占林分に相当する。



撮影：松本健太郎

ムクロジ群落

選定理由 暖温帯下部の山地・丘陵地谷部などに見られる自然植生であるが、県内には2か所、合計1ha程度しか残存していない。シカによる林床植生の食害が一部で見られる。

危機要因 森林伐採、シカ増加

分布情報 宗像市、嘉麻市

群落概要 暖温帯下部の山地・丘陵地谷部に見られ、標高約100~250mの範囲に残存する。群落高は22m、胸高直径は90cm程度に達し、高木層にはムクロジのほか、ムクノキ、ウラジロガシなどが混生する。亜高木層には、イスノキ、ホソバタブ、トキワガキ、イロハモミジなど、低木層には、アオキ、ミミズバイ、イヌガヤ、バリバリノキなど、草本層には、イズセンリョウ、クリハラン、キミズ、アリドオシ、クルマシダなどが生育する。



撮影：松本健太郎

特記事項 環境省特定植物群落；45, 80

オオタチヤナギ群落

選定理由 河川の下流部で河畔林を形成するが、河川敷内の高木は河川改修や河川管理によって伐採・除去されやすく、減少が懸念される。近年、様々な外来種の侵入も見られる。

危機要因 湿地開発、土地造成、遷移進行、外来種侵入（ヌマツルギク、セイタカアワダチソウ）

分布情報 福岡市博多区、*福岡市南区、久留米市、*中間市、*那珂川市

群落概要 河辺や後背湿地などに成立する湿生林で、県内では、河川下流部の河畔やため池の後背地などに見られる。群落高は10m程度、胸高直径は50cm程度に達する。オオタチヤナギが優占し、林内には、エノキ、タチヤナギ、ヨシ、マコモ、オギ、ツルヨシ、クサヨシ、ミゾソバ、セリ、ゴキツル、カナムグラ、ホソバイラクサなどが生育する。ジャヤナギ-アカメヤナギ（マルバヤナギ）群集に該当する。



撮影：松本健太郎

ネコヤナギ群落

選定理由 RDB2024新規掲載群落。県内の河川に広く見られるが、河川中上流部の水際や砂礫の堆積地に生育することから、河川改修や護岸工事により消失する危険性がある。また、川崎町の中元寺川では、マルバヤナギとの競合により減少したとされている。

危機要因 河川開発、競合種拡大（マルバヤナギ）

分布情報 朝倉市、みやま市、那珂川市、篠栗町、川崎町

群落概要 中元寺川、筑後川、矢部川、那珂川などの中上流部に見られる落葉低木林。流水の影響を強く受ける礫地の水際、砂礫の堆積した砂州や扇状地に見られる。群落高1～3mになり、低木層はネコヤナギのほか、オギ、ツルヨシなどが混生する。草本層はホシダ、スギナ、ヨモギ、ツククサなどが見られる。ネコヤナギ群集に該当する。

特記事項 川崎町指定天然記念物（中元寺川のネコヤナギ群）。山国川、遠賀川、那珂川、筑後川、岩岳川などでは、ネコヤナギを用いた多自然川づくりが行われている。



撮影：金子洋平

ハマボウ群落

選定理由 塩湿地に生じる低木林であるが、河口域や海岸付近の様々な開発によって、県内ではごく僅かしか残されていない。優占種のハマボウは、RDB2024準絶滅危惧に選定されている。雷山川河口の群落は九州最大の規模を持ち、よく保護されているが、県内他地域では埋立てや護岸工事で消滅するおそれがあるほか、地球温暖化に伴う海面上昇による影響も懸念される。

危機要因 河川開発、海岸開発、その他（海面上昇）

分布情報 北九州市八幡西区、福岡市東区、福岡市西区、福津市、糸島市、岡垣町

群落概要 河口や入江の塩湿地に成立する低木林で、群落高は6m程度に達する。ハマボウが優占し、通常、林床の植物はごく僅かであるが、低木層には、マサキ、トベラなど、草本層には、シオクグ、アオツツラフジ、クスノキ、ネズミモチ、ハマボウ（実生）などが見られる。ハマボウ群集に該当する。

特記事項 玄海国立公園普通地域、県指定天然記念物（泉川のハマボウ群落）、環境省特定植物群落；86



撮影：松本健太郎

マルバニッケイ群落

選定理由 宗像市（旧大島村）だけに見られる。全国的には、沖縄県（硫黄島）、鹿児島県（トカラ列島、屋久島、種子島、宇治・草垣群島、本土南部）、長崎県（男女群島）などに分布する日本固有種である。ここが一番近い男女群島からでも300kmほど離れており、北限自生地であることや隔離分布地としても貴重である。種としてはRDB2024絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 自然災害、産地局限、道路工事

分布情報 *宗像市

群落概要 大島北海岸の岩上、急斜面、崖下、風衝地の尾根などに長さ1km弱に生育している。樹高は1～4m程度の低木状から5～8mの亜高木状まで様々で通常群生するが、一部ではクロマツ、ハマビワ、ハマヒサカキ、シャリンバイ、トベラ、ヤツデなどが混生する。また林床や林縁にはオニヤブソテツ、ホソバワダン、ツワブキ、ダルマガクなどが見られる。



撮影：猪上信義

マテバシイ群落

選定理由 マテバシイは、九州の沿岸部から琉球列島にかけて自生し、古くから薪炭、用材、果実は食用として利用されてきた常緑広葉樹である。本群落は玄界灘沿岸部および島嶼部に広く分布しているが、その大部分は植栽起源である。近年、福岡市の鴻巣山、志賀島周辺のマテバシイ群落は、カシノナガキウムシの著しい被害を受けており、鴻巣山では2022年3～4月に被害木の伐採を行うとともに、トラップによる継続的な駆除を実施している。



撮影：笹富広一郎

危機要因 病害虫

分布情報 福岡市東区、福岡市中央区、福岡市南区、*宗像市、*福津市、糸島市、*岡垣町

群落概要 マテバシイは、乾燥に強く、萌芽力が高く、陽樹的な性質を持つため、主に尾根の二次林の優占種となる。福岡市の鴻巣山では、高木層は高さ14～18mでマテバシイが優占し、アラカシ、ツブラジイ、ナナミノキ、ヤマモモが混じる。亜高木層以下の植被率は10%以下と低く、ヒサカキ、クロガネモチ、オオカグマ、イタビカズラ、ササクサなどが僅かに見られる。ハクサンボクーマテバシイ群落に該当する。

特記事項 玄海国立公園特別地域、環境省特定植物群落；61, 65, 107

タマミズキ群落〈個体群〉

選定理由 タマミズキは優占種となることがほとんどなく、県内における既知の当該群落は1か所だけである。当該群落では、山林利用の低下などに伴う遷移進行によって常緑広葉樹の優占度が高まっている。

危機要因 産地局限、遷移進行

分布情報 八女市

群落概要 ツブラジイが優占する常緑広葉樹林の一部に、落葉広葉樹であるタマミズキが群生し、当該群落が成立している。当該群落でも、周辺域同様にツブラジイやアラカシ、タブノキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が優勢になりつつある。

コナラ群落

選定理由 山林利用の低下などに伴う遷移進行や、近年のナラ枯れ被害の拡大などによって、常緑広葉樹林化している群落が多い。

危機要因 遷移進行、管理放棄、病害虫

分布情報 北九州市小倉北区、北九州市八幡西区、*久留米市、*八女市、*筑紫野市、*大野城市、*太宰府市

群落概要 コナラやノグルミ、クマノミズキ、ハゼノキなどの落葉広葉樹が高木層を形成し、シイ類やタブノキ、シロダモなどの常緑広葉樹を伴う。1960年代以前の日常的な山林利用などによって形成・維持されてきた二次林であり、いわゆる里山の林である。定期的な伐採などによって維持管理されている場所もあるが、ほとんどのコナラ林には人手が加わっていない。



撮影：須田隆一

特記事項 県内各地の自然公園

ヒモヅル群落〈個体群〉

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 県内における既知の群落は1か所だけである。マツ枯れによるアカマツの枯損に伴い下層が乾燥しつつある箇所や、林道整備によって高木層が伐採された箇所が存在する。ヒモヅルは、RDB2024において絶滅危惧IB類、環境省RL2020において絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 産地局限, 病害虫, 道路工事

分布情報 行橋市

群落概要 アカマツやクリ, リョウブ, クロキなどからなる比較的明るい群落であり, 湿度の高い林床に生育するヒモヅルが樹木にはい上がっている。

特記事項 県指定天然記念物(御所ヶ谷のヒモヅル自生地), 環境省特定植物群落; 23



撮影: 須田隆一

ツクシオオガヤツリ群落

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅡ

選定理由 福岡市中央区, 同南区, 同城南区, 同西区, 同早良区, 古賀市, 小郡市の池沼で見られる。特に管理されていない池沼で数千株以上あるかと思えば, 古賀市では保護されているにもかかわらず20株程度に減少して消滅の危機にある。ほとんどが市街地周辺にあり, 埋立てや競合種拡大(ヒメガマ, マコモ, ウキヤガラなど), 池沼の公園化や浚渫などの危機要因がある。本種は福岡城の濠が基準標本産地であり, RDB2024絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 湖沼開発, 競合種拡大(ヒメガマ, マコモ, ウキヤガラ, キショウブ), その他(池の公園化)

分布情報 *福岡市中央区, *福岡市南区, *福岡市西区, *福岡市城南区, *福岡市早良区, 小郡市, 古賀市

群落概要 群落の中心部ではツクシオオガヤツリの純群落となるが, 周辺部ではヨシ, マコモ, ヒメガマ, ウキヤガラ, キショウブ, ハスなどと競合することが多い。水深の深い場所ではヒシ, オオカナダモ, ホテイアオイなどの浮遊植物が見られる。土壌が固定された場所より, 時々攪乱される場所を好む。

特記事項 県指定天然記念物(ツクシオオガヤツリ), 環境省特定植物群落; 103



撮影: 須田隆一

ウキヤガラ群落

カテゴリーⅢ

2011

選定理由 周防灘北部から福岡市以東の玄界灘沿岸の池沼および河川の中～下流域に見られる。そのうち, ある河畔ではかなりまとまって見られ, ここは河川管理者の保護対象となっている。また別の地域の廃水田にもかなりまとまって見られる。そのほかにも小面積点在するが, 河川改修や湖沼開発などで荒廃や消滅した場所が多い。ウキヤガラは水生昆虫フトネクイハムシ(RDB2024絶滅危惧IA類)の食餌植物であり, その点でも貴重である。

危機要因 河川開発, 湖沼開発, 管理放棄

分布情報 *北九州市八幡西区, *福津市, *宮若市, *那珂川市, *久留米市, *新宮町

群落概要 ある河畔の群落の中心部では背丈1.0~1.2mのウキヤガラ純群落だが, 周辺にはマコモ, ヨシ, オオタチヤナギ, タコノアシ, シロバナサクラタデなどが混生している。別の地域では海岸の水田跡地に群生し, アゼナルコやハリコウガイゼキショウなどが混じる。周辺部には希少種のツクシナルコが稀に見られる。



撮影: 須田隆一

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

低層湿原

カテゴリーⅢ

2011

タコノアシ群落

選定理由 筑後川、遠賀川、山国川の主に下流域に見られ、筑後川では群生する。以前は河川改修の影響を直接受けたいが、流出する根茎や大量に散布される種子により、数年もすると回復する傾向にある。希少種ということで今日では工事などに際しては一定の配慮がなされるので、急激な減少は見られない。種としてはRDB2024準絶滅危惧種に選定されている。

危機要因 河川開発、踏みつけ

分布情報 *久留米市、*宮若市、*上毛町

群落概要 河川下流域で水の流れが緩やかな泥湿地に見られ、高さは60~100cm程度。筑後川下流で広川が流入する付近では長さ数百m以上に及ぶ群生地が点在し、ほとんど純群落であるが、周辺ではポントクタデ、ヨメナ、スカシタゴボウなどが混生する。遠賀川では時に中流域でも見られるが、ここでは群生することなくウキヤガラやマコモ、ヨシなどと混生している。



撮影：猪上信義

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

河辺冠水草原

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅡ

オギ群落

選定理由 本県では遠賀川、今川、筑後川、矢部川の中流から下流域で、細かい砂礫の堆積する場所に見られる。地下茎を縦横に張り巡らせているため、時々起こる洪水にも耐える。茎と茎の間隔が広いので、鳥獣類が生息場所として利用することが多く、その点でも貴重である。各地に点在するが、河川開発、土砂採取などで群生地は減少している。

危機要因 河川開発、水質汚濁、その他（土砂採取）

分布情報 県内各地

群落概要 群落の中心部では草丈1.5~2.0mのオギ純群落となることが多い。周辺部では土壌条件や水深、水流の速度などの違いによりヨシ、ツルヨシ、マコモ、ススキ、クサヨシ、シロバナサクラタデ、ヤナギタデなどと混生する。乾性化が進行すると、セイタカアワダチソウ、オオブタクサ、セイバンモロコシなどの外来種が増加する。オギ群集に該当する。



撮影：須田隆一

特記事項 環境省特定植物群落；42，70

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

浮葉・沈水草原

カテゴリーⅢ

2011
カテゴリーⅢ

アマモ群落

選定理由 遠浅の海岸で泥土が堆積する海底に見られ、糸島市の引津湾や船越湾、福岡市の博多湾、宗像市大島近海などに分布している。埋立や土砂採取などによって生育できる環境は減少しており、周辺からの土砂流入、水質汚濁などによる減少や消滅も懸念される。優占種のアマモは、RDB2024で準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 海岸開発、水質汚濁、その他（土砂採取、土砂流入）

分布情報 *福岡市東区、*福岡市中央区、*福岡市西区、*福岡市早良区、*宗像市、*糸島市

群落概要 海から河口の海水～汽水の潮間帯～潮下帯に見られる沈水草本群落。アマモの純群落となる。アマモ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園普通地域。博多湾では、環境保全創造事業として、アマモ場づくりが行われている。

シオクグ群落

選定理由 河川改修や埋立て、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。県内では生育地が比較的多く、生育面積も比較的大いので、カテゴリーⅢが妥当と判断される。

危機要因 河川開発、海岸開発、その他（海岸浸食、海面上昇）

分布情報 *北九州市門司区、北九州市八幡西区、福岡市東区、福岡市西区、*柳川市、大川市、行橋市、*豊前市、*築上町

群落概要 塩沼地の泥地または砂泥地に見られ、群落高は0.5~0.7m程度（ヨシが混生する場合は1m程度）である。本群落はシオクグのみで構成されることが多いが、ヨシなどが混生する場合もある。シオクグ群集に該当する。

特記事項 環境省特定植物群落；73，84



撮影：松本健太郎

アイアシ群落

選定理由 河川改修や埋立て、地球温暖化に伴う海面上昇などにより消失する危険性がある。博多湾沿岸での分布は限られているが、有明海沿岸では比較的広く見られる。

危機要因 河川開発、海岸開発、その他（海面上昇）

分布情報 福岡市東区、柳川市、大川市、行橋市、築上町

群落概要 塩沼地植生としては、最も陸側に見られ、群落高は1.5~1.7m程度である。アイアシが優占し、純群落を形成するほか、ヨシ、ハマゼリ、シオクグ、フクドなどが混生する場合もある。アイアシ群集に該当する。



撮影：松本健太郎

ダルマガク群落

選定理由 本群落の優占種であるダルマガクは観賞価値があり、園芸用の採取の可能性があるほか、港湾の背後の生育地では、擁壁の建設などにより消失の危険性がある。優占種のダルマガクは、RDB2024準絶滅危惧に選定されている。

危機要因 海岸開発、園芸採取

分布情報 *北九州市若松区、宗像市、*福津市、糸島市、新宮町

群落概要 海岸断崖地や海岸風衝斜面に見られる草原植生。群落高は0.2~0.4m程度で、ダルマガクが優占し、ホソバワダン、ハマペノギク、ハチジョウススキ、ニオウヤブマオ、オニヤブソテツ、シマカンギク、ハマナデシコ、ポタンボウフウ、ハマボッスなどが混生する。ダルマガク-ホソバワダン群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、環境省特定植物群落；74，76



撮影：松本健太郎

スギ群落〔巨木林〕

選定理由 県内に広く見られるスギ人工林は、通常50年前後で伐採・植林・育林を繰り返し、100年を超える林分はごく僅かである。しかし、篠栗町若杉山や東峰村小石原には200～400年（中には500年以上）を経た林分が見られる。これらは山岳宗教と関係する場合が多いが、いずれも幹直径1mを超えるスギの群生地として貴重である。

危機要因 自然災害、シカ増加、踏みつけ

分布情報 *篠栗町、*東峰村

群落概要 高木層はスギの純林で樹高は25～40（最大55）m、直径はまちまちだが80～150（最大350）cmのものが多い。亜高木層以下ではタブノキ、シロダモ、カゴノキ、バリバリノキ、シキミ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ケクロモジ、ヤブムラサキ、アオキなどが多い。林床はイノデ類、キヨスミヒメワラビ、イノコヅチ、フユイチゴなどが見られる。面積は若杉山、小石原ともに4ha前後である。なお小石原ではシカの生息密度が高く、従来見られたミヤコザサやアオキなどが激減している。

特記事項 行者スギ遺伝資源希少個体群保護林、環境省特定植物群落；31、100

ツゲ群落

選定理由 古処山地の群落は、県内唯一のツゲ天然林である。本群落は、国および県の天然記念物に指定されており、保存状況はおおむね良好である。優占種であるツゲやその群落内には目立ったシカの食害は見られないが、シカの密度が高いことから、林床植物への影響が懸念される。優占種のツゲは、RDB2024で絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

危機要因 シカ増加

分布情報 嘉麻市、朝倉市

群落概要 古処山上部の石灰岩地に成立する常緑広葉低木林。群落高は3～9mで、亜高木層にツゲが優占し、コハウチワカエデ、イロハモミジ、イヌシデなどの落葉樹、シロダモ、イヌガヤなどの常緑樹を伴う。低木層には、ハナイカダ、モミジウリノキ、サイゴクイボタ、コマユミなど、草本層にはイワガラミ、ヤマアイ、ヤマヤブソテツなどが生育する。

特記事項 筑後川県立自然公園特別地域、特別天然記念物（古処山ツゲ原始林）、県指定天然記念物（秋月のツゲ原始林）、環境省特定植物群落；50



撮影：金子洋平

イワシデ群落

選定理由 石灰岩地に成立する群落であり、県内では香春岳や平尾台、竜ヶ鼻などに見られ、多くは保存状況良好である。しかし、香春岳では、優占種であるイワシデにシカの食害は見られないものの、イワツクバネウツギやイブキシモツケ、アオキなどの被害が増えてきており、林床植物の貧弱化が危惧される。また、将来的には石灰採掘による群落の消失も危惧される。

危機要因 石灰採掘、シカ増加

分布情報 北九州市小倉南区、香春町、*福智町

群落概要 ヤブツバキクラス域とブナクラス域の境界付近に成立する落葉広葉樹林。石灰岩地に生育する。群落高5～10mで、亜高木層にイワシデが優占し、低木層にはオオコマユミが多く、イワツクバネウツギ、イブキシモツケ、キビノクロウメモドキ、コパノチヨウセンエノキなどの好石灰岩植物が生育する。草本層にはテイカカズラ、シロヨメナ、シロバナハンショウヅル、ホソバヒカゲスゲなどが生育する。イワツクバネウツギ-イワシデ群集に該当する。

特記事項 北九州国定公園特別地域、筑豊県立自然公園特別地域、環境省特定植物群落；19、24



撮影：金子洋平

トベラ群落

カテゴリーⅣ

2011
カテゴリーⅣ

選定理由 海岸風衝断崖地や砂丘の風衝地に成立する低木林であるが、海岸付近の様々な開発によって減少している。近年でも一部で開発による消失が見られる。

危機要因 森林伐採、海岸開発

分布情報 北九州市門司区、北九州市若松区、*福津市

群落概要 海岸風衝断崖地や砂丘の風衝地に成立する低木林で、群落高は1～5m程度である。ハマビワ群落に比べるとより厳しい立地条件下に発達する。低木層には、トベラのほか、マサキ、アキグミ、ハマヒサカキ、ネズミモチなど、草本層には、オニヤブソテツ、ツワブキ、アオツツラフジ、オガルカヤ、シマカンギク、ハマニンドウなどが生育する。マサキートベラ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、環境省特定植物群落；1, 37



撮影：松本健太郎

ハマヒサカキ群落

カテゴリーⅣ

2011
カテゴリーⅣ

選定理由 海岸の風衝斜面に成立する低木林であるが、海岸付近の様々な開発によって減少している。

危機要因 森林伐採、海岸開発

分布情報 宗像市、糸島市

群落概要 海岸の風衝斜面に成立する低木林で、群落高は1～3m程度である。下方で海岸断崖草原と接し、上方でハマビワ群落と接する。低木層には、ハマヒサカキのほか、トベラ、ハマビワ、マサキ、ヒメユズリハ、ノブドウ、カエデコロなど、草本層には、ツワブキ、ホソバワダン、ハマサオトメカズラ、ヤマカモジグサ、キツタなどが生育する。マサキートベラ群集の一型である。

特記事項 玄海国定公園特別地域、福岡県大島自然環境保全地域、環境省特定植物群落；57, 76



撮影：松本健太郎

ハマビワ群落

カテゴリーⅣ

2011
カテゴリーⅣ

選定理由 海岸の風衝斜面に成立する亜高木林または低木林であるが、海岸付近の様々な開発によって減少している。

危機要因 森林伐採、海岸開発

分布情報 *北九州市若松区、*福岡市東区、*福岡市西区、宗像市、*糸島市

群落概要 海岸の風衝斜面に成立する亜高木林または低木林で、群落高は2～7m程度である。海岸斜面の比較的土壌が堆積した立地に見られる。亜高木層には、ハマビワのほか、マサキ、ヤブニッケイ、ナタオレノキなどが生育する。低木層には、ヤブツバキ、サンゴジュ、ヤツデ、オムラサキシキブなど、草本層には、ノシラン、フウトウカズラ、オニヤブソテツ、ツワブキ、ニオウヤブマオなどが生育する。オニヤブソテツ-ハマビワ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、福岡県沖ノ島自然環境保全地域、環境省特定植物群落；58



撮影：松本健太郎

ヤブツバキ群落〈個体群〉

選定理由 ヤブツバキは、東アジアに広く分布し、古くから種子からとる椿油が利用されていた。本群落はヤブツバキ以外の樹木を択伐することによって純林が維持される人為的な影響が強い群落である。県内にも過去にはこのようなヤブツバキの純林があったが、択伐が行われなくなると遷移が進み、現在は下層にヤブツバキが多いタブノキ群落やクスノキ群落になっている。すなわち、ヤブツバキ個体群は亜高木層の優占種として維持されている。



撮影：金子洋平

危機要因 遷移進行

分布情報 北九州市八幡西区，福岡市南区，*宗像市

群落概要 北九州市の河頭山では、1970年代には既にヤブツバキの純林ではなく、ヤブツバキの上層にタブノキ、クスノキがあった。現在、高さ16～20mの高木層にタブノキが優占するほか、クスノキ、カラスザンショウが見られ、8～12mの亜高木層にヤブツバキが高い被度で見られる。低木層にはヤブニッケイ、アオキ、バクチノキ、イヌビワ、草本層にはヤブニッケイ、シロダモ、イズセンショウ、ベニシダ、フモトシダなどが生育する。

特記事項 玄海国定公園特別地域，環境省特定植物群落；14

サザンカ群落〈個体群〉

選定理由 サザンカは、本州西端，四国南西部，九州，沖縄諸島に見られる常緑低木で、主に常緑広葉樹林の林床に生育するが、普通は林冠の優占種になることはない。本群落はサザンカ以外の樹木を択伐することで人為的に維持される純林である。県の天然記念物に指定された久留米市長岩山の群落は良好な状態で維持されており、11月頃に一面に白い花を咲かせる。



撮影：須田隆一

危機要因 遷移進行

分布情報 久留米市，*八女市，*宗像市

群落概要 久留米市の長岩山では高木層，亜高木層を欠き、高さ4～7mの低木層に高い被度でサザンカが優占し、草本層には、コチヂミザサ、フユイチゴ、コガクウツギ、アオキ、テイカカズラ、シシガシラ、ミヤマノコギリシダなどが生育する。2022年8月の調査では、林床にサザンカの実生は確認されていない。

特記事項 筑後川県立自然公園，県指定天然記念物（長岩山のサザンカ自生地），環境省特定植物群落；101

ヨシ群落

選定理由 ヨシ群落は河畔で流れが緩やかで細かい砂礫が堆積する場所や遷移の進んだ池沼辺や廃田など至る所に見られる。その地上部や水面下部などは諸生物の生息場所として利用されており、ハビタットとしても貴重である。しかし河川開発，湖沼開発，土砂採取などにより、大規模に見られる場所は減少している。



撮影：猪上信義

危機要因 河川開発，その他（土砂採取）

分布情報 県内各地

群落概要 ヨシの純群落となることが多く、草丈は1.5～2.5mくらいである。周辺部ではオオタチヤナギ、ミゾソバ、シロバナサクラタデ、ポントクタデ、マコモなどが混生する。流れの速い場所ではツルヨシに置き換わる。

特記事項 環境省特定植物群落；42，70

マコモ群落

選定理由 河畔の比較的水深の深い場所を好むので、コンクリート護岸などにより一時的に消失・減少しても、しばらくすると復活することが多い。水流の最前面にあり、ヨシ群落やウキヤガラ群落など河畔におけるハビタットの緩衝地となることでも重要である。県内各地に点在するが、大規模に見られる場所は減少している。

危機要因 河川開発，ダム建設

分布情報 県内各地

群落概要 中心部では高さ1.5～2.0mのマコモ純群落となることが多いが、場所によってはヒメガマ，ヨシ，オオタチヤナギなどが混生する。



撮影：須田隆一

ツルナ群落

選定理由 筑前海沿岸の海岸砂浜に見られ、生育地も比較的多い。しかし、防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消滅する危険性がある。危機要因を有する海岸砂丘植生であることから、今回の見直しにおいてもカテゴリーⅣを踏襲した。

危機要因 海岸開発，踏みつけ

分布情報 *北九州市若松区，*北九州市小倉北区，*福岡市東区，*福岡市西区，*宗像市，*古賀市，*福津市，糸島市，*新宮町，*芦屋町，*岡垣町

群落概要 砂礫浜の波打ち際に成立する草本群落。群落高0.3～0.5mで、ツルナが茎を伸ばして優占し、ハマダイコン、ハマヒルガオなどの海岸植物が混生する。ギシギシ，カモジグサなどの路傍植物が混生している場所もある。

特記事項 玄海国定公園特別地域，福岡県沖ノ島自然環境保全地域，福岡県大島自然環境保全地域，環境省特定植物群落；40，60，75

ハマゴウ群落

選定理由 飛砂防止工事や防潮護岸の建設，海岸浸食などにより消失する危険性があるほか，外来種のコマツヨイグサやオオフトバムグラなどの侵入も見られる。海岸砂丘植生の中では内陸側に成立する機会が多いため，植林を含む飛砂防止工事による影響を受けやすい。

危機要因 海岸開発，その他（海岸浸食，植林）

分布情報 福岡市東区，*福岡市西区，宗像市，糸島市，岡垣町

群落概要 矮性の低木林で，海岸砂丘の草本群落に接してその内陸側に見られることが多い。群落高は0.2～0.6m程度である。ハマゴウが優占し，コウボウムギ，ケカモノハシ，カワラヨモギ，オニシバ，ハマタマボウキ，ハマボウフウ，カモジグサなどが混生する。チガヤ-ハマゴウ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域，環境省特定植物群落；40，60，75



撮影：松本健太郎

ボタンボウフウ群落

カテゴリーⅣ

2011
カテゴリーⅣ

選定理由 筑前海沿岸の海岸断崖地に見られる。場所によっては港湾背後のコンクリート擁壁の建設などにより消滅する危険性がある。群落状況がおおむね安定していることから、今回の見直しにおいてカテゴリーⅢからカテゴリーⅣに変更した。

危機要因 海岸開発

分布情報 *北九州市若松区, *福岡市西区, *宗像市, *糸島市, *新宮町, *芦屋町

群落概要 海岸断崖地に成立する風衝草原。群落高は0.3~0.5mで、ボタンボウフウが優占し、ホソバワダン、ハマボッス、タイトゴメ、ハマエノコロ、ハマナデシコなどが混生する。ダルマガク群落と同様の立地に成立するが、ダルマガクを欠くことでダルマガク群落と区別される。ホソバワダン-ボタンボウフウ群集に該当する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、福岡県沖ノ島自然環境保全地域、福岡県大島自然環境保全地域、環境省特定植物群落；76



撮影：松本健太郎

ハチジョウススキ群落

カテゴリーⅣ

2011
カテゴリーⅣ

選定理由 筑前海沿岸の海岸断崖地や崩壊斜面に見られる。特に島嶼で発達しており、小呂島、沖ノ島、相島、大島、地島、白島などにはまとまった面積の群落が発生している。本土側の芥屋の大門、鐘ノ岬などにも小面積の群落がある。優占種のハチジョウススキは、大型で頑強な多年草であり、多くは保存状況良好である。しかし、場所によっては港湾改修などで消滅する危険性がある。

危機要因 海岸開発

分布情報 *北九州市若松区, *福岡市西区, *宗像市, *糸島市, 新宮町

群落概要 海岸断崖地に成立する風衝草原。群落高は1~1.3m程度で、ハチジョウススキが優占し、ニオウヤブマオ、ボタンボウフウ、ツワブキなどが比較的多く、ヒゲスゲ、クルマバアカネ、ハマナタマメ、ハマサオトメカズラなどが混生する。

特記事項 玄海国定公園特別地域、福岡県沖ノ島自然環境保全地域、福岡県大島自然環境保全地域、環境省特定植物群落；85



撮影：松本健太郎

クスノキ群落〔巨木林〕

カテゴリーⅣ

2011
カテゴリーⅣ

選定理由 クスノキは成長が早く寿命が長いので巨木が多く、江戸時代から用材、医療用、防虫剤、火薬原料、洪水防止などとして各地に植栽されている。特に新宮町・久山町にまたがる立花山と八女市立花町・みやま市の矢部川河畔には300年を超える群生地が見られ、自然林の様相を呈する。一部では公園としても活用されているが、林床の不適切な利用のため、一部のクスノキに衰退が見られる。

危機要因 土地造成、踏みつけ

分布情報 八女市, みやま市, 新宮町, 久山町

群落概要 立花山では樹高20~30m、胸高直径80~150cm（最大2.5m）のクスノキがほぼ純林をなし、一部にタブノキ、ヤブニッケイ、カゴノキ、シロダモ、バリバリノキなどを交え、谷部にはムクノキが多く、全く自然林の様相を呈している。低木以下にはヤブツバキ、ヒサカキ、アオキ、キジョラン、フウトウカズラ、イズセンリョウ、ハナミヨウガ、カナワラビ類、ベニシダ類などと種類も豊富である。矢部川河畔では直径50~120cmとやや小さく、一部公園化されて林床植生はメダケを除いて貧弱である。

特記事項 玄海国定公園特別地域、特別天然記念物（立花山クスノキ原始林）、国指定天然記念物（新舟小屋のクスノキ林）、環境省特定植物群落；53, 59



撮影：松本健太郎

キンメイモウソウチク群落

選定理由 キンメイモウソウチクは、モウソウチクの栽培品種で緑色の稈に黄金色の縦縞が入った竹である。植栽された外来種であるが、稈が美しく当時は珍しかったため、久留米市高良山の植栽地は「高良山のモウソウキンメイチク林」として1974年に国の天然記念物に指定されている。過去に衰退した時期もあったが、現在は適切な管理が行われており、群落は良好な状態で維持されている。



撮影：笹富広一郎

危機要因 管理放棄

分布情報 久留米市

群落概要 高木層にキンメイモウソウチクが優占し、高木層は高さ14~16mで、古い稈とともに低木が伐採されるため、亜高木層、低木層を欠く。草本層は0.5m以下でハエドクソウ、シンミズヒキ、ヤブミヨウガ、イノコヅチ、フモトシダなどが低い被度で見られる。

特記事項 筑後川県立自然公園普通地域，国指定天然記念物（高良山のモウソウキンメイチク林），環境省特定植物群落；102